

# 山口県医師会報

新年特集号

令和3年(2021年)

1月号

— No.1925 —



炉辺談話

● 表紙の絵に寄せて

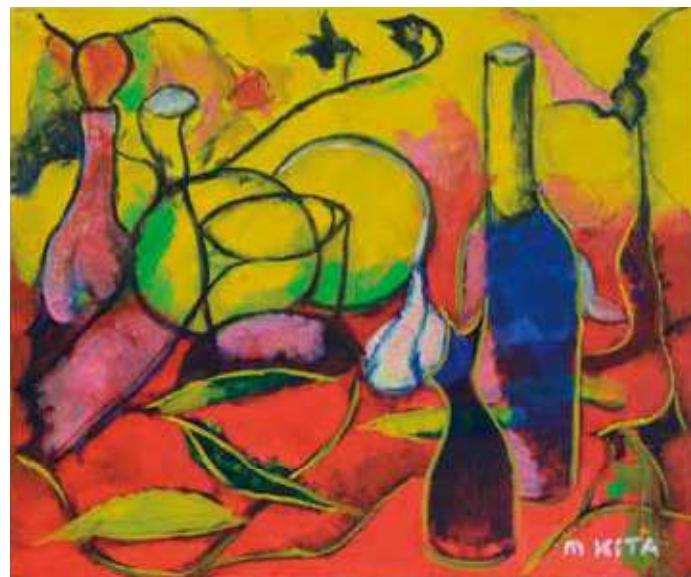
下関市 喜多 正鎮

表紙「花」



コロナの影響により、予定されていたグループ展が中止になり、出展予定だった作品です。新年にふさわしいものではありませんが、教室が休みになって、その後、絵を描くのも休んでいるので、これで我慢してください。

裏表紙「コンポジション」



15年前に病気を患い、右半身が不自由になりました。以後、左手で描いていますので半抽象の絵を描いています。見た人の感じるままに見ていただくといいです。

# Contents

■表紙の絵に寄せて ..... 下関市 喜多正鎮 2

■年頭所感

- |              |   |
|--------------|---|
| 山口県医師会長 河村康明 | 4 |
| 日本医師会長 中川俊男  | 6 |
| 山口県知事 村岡嗣政   | 7 |

<b>炉辺談話</b>	PCR狂想曲	山口大学 しまふくろう	9
	日本医師会から米寿の銀盃を頂いて	岩国市 藤本典男	12
	にっぽん再生論教育（と道徳）編	徳山 望月一徳	14
	自分の命の終焉を考えてみる（後編）	宇部市 渡木邦彦	18
	俳句ギャラリー	ふしの句会（山口市医師会）	22
	ペリリュー島慰靈の旅	下関市 上領頼啓	24
	江戸の旅人といわれた松陰先生～長崎から青森まで～	萩市 山本貞壽	28
	哲学コンサル	徳山 中村和行	31
	モンスター（ペイシャント）	下関市 塩見祐一	34
	はじめての四国八十八か所お遍路	防府 山下哲男	36

■新病院長に聴く「宇部興産中央病院長」 <聴き手>吉川功一 40

■2021年のスギ・ヒノキ花粉飛散の予測 沖中芳彦 44

■今月の視点「医療事故紛争における法理」 鄭良秀典 48

■フォトコンテスト審査会 長谷川奈津江 52

■令和2年度 郡市医師会地域包括ケア担当理事会議 伊藤真一 58

■令和2年度 第51回全国学校保健・学校医大会

今村孝子、河村一郎、繩田修吾 61

■令和2年度 中国地区学校保健・学校医大会 河村一郎 72

■日医FAXニュース 80

■お知らせ・ご案内 81

■編集後記 広報委員 88

## 年頭所感

山口県医師会長 河村 康明



新年明けましておめでとうございます。新しい年を迎えるにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

2020年は、「100年に一度」の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の発生で、大変な年となりました。未だに終息の目途は全く立っていませんが、諸外国との比較をしますと、①国民皆制度の存在、②日本人の国民性、が現況の数字の要因となっているというのは過言でしょうか？

治療薬やワクチンの開発が全世界で行われておりますが、なかなかのことではないようです。国民性という特殊性だけでウイルスに立ち向かうには、やや長期化し過ぎているようで、第3波の発生には気の緩みが確かにあるように思います。

経済を廻すことの重要性は十分に理解しているつもりでも、これから的一年間を考える時に、山口県医師会の発信力が問われる時期だと考えます。会員の皆様方におかれましても、深いご理解と温かいご協力を切にお願いするものであります。

### 2021年は ～with corona～

昨年の終わりには、県内における第3波の出現でクラスターの発生も各地で起こっております。大切なことは、従前の医療機能を確保しつつコロナ対策を行うことであると考えます。第二種感染症指定医療機関の5病院を中心に、協力病

院、宿泊療養施設、診療・検査医療機関が一体となり、ワクチンが一般に行き渡るまでは強固な協力態勢を構築することが重要でしょう。特に、医療関係者は自分自身の安全を守ることが即ち、医療体制を維持することであるという深い認識が必要でしょう（「まず、自分を守れ！」）。

県内での検査の終結が同日内での検査結果報告に繋がり、早期発見・早期対応になることから、更なる努力を行いたいと考えております。

また、コロナと同時にインフルエンザの流行も考えられるので、特に1～3月の間はさまざまな感染症を念頭に置いた診療活動を余儀なくされると思います。医療施設・福祉施設のクラスターは、ある意味、必然的に起こりうることでしょう。未然～小規模時での早期の対応の重要性が叫ばれます。医療圈ごと・地域ごとの連携をより強固にお願いいたします。

### 未来の医療 ～post corona～

コロナの発生で即座に変わったことは、受療行動の変化で、2020年の1～5月の患者数の変化はまさにその通りでした。6月にV字回復を成し遂げた診療科もありますが、耳鼻科・小児科・眼科などでは原点復帰はまだ先のようです。この受療行動の変化は100%元の状態に戻ることは考えられず、これから医療を考える上での警告でもあり示唆でもあるでしょう。キーワードは予防保健・予防医療であると思いますが、山口

県の特定健診や癌検診の受診率を見ると、率直に危惧の念を覚えます。県民性という三文字で片づけることなく、もっと県民にその重要性を知っていただけるようにアピールする必要があるでしょう。

もう一つ気がかりなのは、母子健康手帳の発行数の減少です。一部の調査では、山口県は約30%減少で全国最下位ということでした。さらなる検証が必要ですが、行政を取り込んだ取組みが必要かもしれません。経済的な不安から減少しているのであれば、なおさらでしょう。

### 更に未来のはなし

コロナとの直接な関係はありませんが、現在、山口県医師会が入居しております山口県総合保健会館も約20年の年月が経とうとしています。前年の代議員会でも言及しましたが、将来設計を考えても良い時期に来ていると思います。特に、若手の先生方には、将来の山口県医師会の担い手として十分な意見並びに将来設計についてのご提案を是非お願いしたいと存じます。

以上、年頭所感にしては重い話となりましたが、2021年がコロナ終息の年であり、新たな山口県医師会のスタートの年となりますように、会員の先生方のご協力を重ねてお願ひいたします。

## 年頭所感

日本医師会長 中川 俊男



明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が世界中に猛威をふるいました。わが国においても国民は新しい生活様式を求められていますが、新型コロナウイルス感染症は完全には終息しないともいわれ、今後ある程度の収束を迎えたとしても、現在の就業形態を含む生活様式の一部は定着していくものと考えられます。そのような中、会員の先生方におかれましては各地域で行政と協力し合い、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐさまざまな取組に日々ご尽力くださっていることに深く感謝申し上げます。わが国に限らず、医療者のこのような献身的な努力に対して、多くの国民から感謝とエールが送られたことはご高承のとおりです。

さて、新たな執行部が昨年6月27日に発足してから六か月が過ぎました。この間、新型コロナウイルス感染症への対応、そのことに連動した医療機関経営の危機的状況への対応、オンライン診療への対応など、激動する社会情勢の中、私は国民、地域住民の健康を第一に、全国の医師会ひいては会員の先生方と連携して、執行部一丸となって柔軟かつ強靭な対応力をもって業務を遂行してまいりました。

また、昨年9月16日に菅内閣が発足いたしました。菅 義偉 内閣総理大臣が述べられた「目指す社会像は、自助、共助、公助、そして絆だ」との言葉は、わが国の社会保障の根幹である国民皆保険が、自助、共助、公助の三要素から成り立っていることに通じるものがあります。日本医師会は改めてこの精神を全うし、国民が安心して医療を受けされることを基本として、これら三要素が適切なバランスを保ちつつ国民皆保険が守られる

よう、しっかりと対応してまいります。そのためにも、これまで以上に国民に寄り添い、医師個人が加入する専門家集団の立場から発信を続けてまいります。

菅政権は、オンライン診療の恒久化を言及されています。日本医師会は、基本スタンスとして、解決困難な要因によって、医療機関へのアクセスが制限されている場合に、対面診療を補完するものという考えに変わりはありません。オンライン診療を行う上での「安全性と信頼性」はかかりつけ医機能を基軸にするべきでありますし、今後、地域医療を担う医師、患者・国民の双方が、真に納得することのできる仕組みづくりを目指して政府や国の審議会における議論に臨んでいきます。

一方、ICTやデジタル技術など、技術革新の成果を、医療の安全性、有効性、生産性を高める方向に向けることは大変重要な視点と考えています。今回の新型コロナウイルス感染症への対応においては、FAXが主に利用されるなど日本の医療分野でのICT化の遅れが浮き彫りとなりました。平時、有事の双方で、良質かつ適切な医療が提供できるよう、医療のICT化を積極的に進めてまいります。

日本医師会は、今後の医療政策策定にあたっては、初期段階よりしっかりと関与していくことはもちろん、適切な合意形成プロセスに則り、政策遂行にあたっていく所存であります。更に、地域医師会を全面的にバックアップし、医療現場が安心して医療に集中できるよう、さまざまな施策を国に提案してまいります。

会員諸氏の深いご理解とさらなるご支援をお願い申し上げますとともに、本年が国民にとって明るい展望が開ける年となりますことを祈念し、新年のごあいさつといたします。

## 年頭所感

山口県知事 村岡 嗣政



明けましておめでとうございます。

新しい年を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、皆様にとりまして、今年が素晴らしい年となりますことを心からお祈り申し上げます。

また、平素から、本県の医療行政の推進に格別の御理解、御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

とりわけ、新型コロナウイルス感染症対策においては、季節性インフルエンザの流行期も見据え、全ての市町における「診療・検査医療機関」の確保を図る上で、山口県医師会及び都市医師会をはじめとした医療関係者の皆様方に多大なご尽力をいただきましたことに、重ねてお礼申し上げます。

県では、現在直面している新型コロナウイルス感染症の危機を乗り越え、コロナの時代にあっても活力に満ちた山口県の未来を切り拓いていくため、昨年10月、「『コロナの時代』に対応するための施策推進方針」を新たに策定したところです。

この方針にもお示ししておりますとおり、県民の命と健康を守ることを最優先に、検査体制の一層の拡充や、十分な受入病床・宿泊療養施設の確保、医療提供体制の維持・強化、医療従事者等への支援など、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策の強化と感染拡大に備えた体制・環境整備に引き続きしっかりと取り組んでまいります。

さて、本格的な少子高齢化社会を迎える中、一人ひとりのいのちが大切にされ、不安なく暮らすることは県民生活の基本であり、生涯を通じて健康で安心して暮らすことができるためには、限られた医療資源の中で、効果的で質の高い医療提供体制を構築することが重要です。

このため、県では、山口県保健医療計画に基づき、県民の皆様方のニーズに即した良質かつ適切な保健・医療の提供に向けて、県民の安心・安全を支える保健医療提供体制の構築と、地域の保健医療を担う人材の確保と資質の向上の二つの視点に沿って、総合的に施策を推進しています。

こうした中、本年度は、計画の中間見直しの年に当たることから、現在、5疾病・5事業に関する指標の見直しや、県高齢者プランとの整合を図ることを目的として、中間見直しを進めているところであり、今後は、今回の見直しを踏まえ、計画最終年度の令和5年度に向けて、保健医療提供体制の整備等を進めてまいりたいと考えております。

もとより、本県の新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、こうした保健医療施策を積極的に着実に進めていくためには、山口県医師会の皆様方のお力添えが不可欠であり、一層の御支援と御協力を賜りますようお願いいたします。

今年の干支は、「辛丑」です。「辛」には、同音の「新」につながる文字で、植物が枯れて新しい世代が生まれようとする意味が、「丑」には「我慢」や「発展の前触れ」「誕生・創造」という意味があり、さまざまな困難に立ち向かいながら、着実に歩を進めることにより、新たな発展やさらなる成長に結びつく様子を思わせます。

私は、山口県医師会の皆様をはじめとする関係団体や市町、県民の皆様と連携し、県づくりの取組を着実に前に進め、成長につなげていく年にしたいと考えておりますので、皆様の御支援、御協力を賜りますよう、重ねてお願いいたします。

終りに、山口県医師会の益々の御発展と、会員の皆様方の御健勝、御多幸を祈念して私の年頭のあいさつとさせていただきます。



## PCR 狂想曲

山口大学 しまふくろう

今やすっかり有名になった検査機器、その名は  
ピー・シー・アール (PCR)。

初めて Polymerase Chain Reaction (PCR) マシーンを見たのは、山口大学医学部第2生化学の中澤研究室であった。1988年のことである。それは一見何の特徴もない、電子レンジほどの箱形の装置だった。メーカーがこの装置を売り込もうとデモ用に置いていったものらしい。丁度そのころ僕は留学準備中で、約半年間ほど研究室におじやまし、分子生物学のイロハを学んでいた。

このボックスのようなものは DNA 増幅装置で、以前は学生が高温槽と低温槽を、時間を測って交互に手動で移動していたものを、全自动に切り替えた優れもの、との中澤先生の説明であった。結局、その時は使う機会がなかった。蛋白質であるはずの DNA 合成酵素が 100℃ 近い高温でも活性

を持つ、ということには興味をもった。

これはまさしく革命であった、ということに後になって気づかされた。専門家と違って研究対象の DNA を増やすことの大変さを、当時の僕は知らなかつたのである。PCR の極めて優れた点は、ごちゃまぜの DNA の中から、標的とする DNA 配列だけを選び出して増幅し、解析することを可能にしたことにある。

誰がこの PCR を発明したのか？

当たり前といえば当たり前だが、この革新的な新技術のアイデアを考えだした人がいた。キャリー・バンクス・マリス (Kary Banks Mullis) という、米国西海岸のサーファーである。彼はポスト・ドクトラル・フェロー、いわゆるポスドクを渡り歩きながら、ある時はファーストフード店



PCR マシーン (イラスト: 司馬さやか)

員であったり、ある時は小説を書いたりして過ごしていた。自由人だったようだ。

1983年5月のあるトチノキの匂う夜、恋人のジェニファーを銀色のホンダ・シビックの助手席に乗せたマリスは、カリフォルニアの森林地帯を爽快に飛ばしていた。マリスの頭の中には、さっきまでの研究室の仕事が夢想のようによみがえっていた。

そのドライブの途中、まったく突然、30億文字もあるゲノムDNA配列の中から、特定の配列を読み解くアイデアがひらめいたのだ。

He is a very peculiar fellow

彼は日本国際賞を受賞したとき、当時の美智子皇后に「スウィーティ（かわい子ちゃん）」と挨拶し、1993年のノーベル賞授賞式後の晩餐会でゲスタフ国王夫妻に「王女の婿にぜひ自分の息子を！」、と売りこんだりした。彼の本の題名どおり奇想天外な人らしい。

僕は学位を授与される前の大学院生として留学したので、まだポスドクではなく、リサーチ・フェローの身分だった。もちろん無給である。途中から賃金がでたが、月2千ドルほどだった。LAでは家賃だけで賃金の半分は飛ぶ。ポスドクの給料



サンタモニカ海岸（2019.3 撮影）

も似たようなものだろう。いまでもそれは変わっていないはずだ。マリスの生活も苦しかったにちがいない。

当時、僕の周りには世界各国から来たポスドクが大勢いた。そしてさらに多くのラボ・テクニシャンと呼ばれる人々がいた。ポスドクとラボ・テクニシャンを分かつもの。ポスドクはいつの日かバスになれる日が来るかも知れないが、ラボ・テクニシャンはいつまでもラボ・テクニシャンのままである。

所属するラボにデューブというユダヤ系のテクニシャンがいた。頭ははげ上がり、汚いあごひげがあった。よれよれのTシャツにジーンズ、リー



ある日、研究室で（イラスト：司馬さやか）

ボックのバスケットシューズというのが彼のいつものスタイルで、仕事にはほとんど情熱がなかった。自由な男で、クラシック・カーとバスケットボールをこよなく愛し、妻は医師で、彼は家事もこなしていたようだ。一度、彼のベンチュラーの自宅に招かれたことがある。60年代風のアメリカン・グラフィティに出てくるような車で郊外をドライブし、裏庭でバーベキューをした。

仕事に情熱がない反面、バスケットボールには異常な入れこみかたで、朝のあいさつもそこそこに、昨夜のロサンゼルス・レイカーズの試合を、まるで自分がコーチするチームのような詳しさで話してくれた。昼食時も誰よりも早くいなくなり、仲間とバスケットに興じていた。

彼のヒーローは、当時、黄金時代を迎えていたロサンゼルス・レイカーズのポイントガードのアーヴィン・“マジック”・ジョンソン・ジュニア(Earvin “Magic” Johnson Jr.)であった。カリーム・アブドゥル＝ジャバー(Kareem Abdul-Jabbar)引退後のレイカーズのリーダーで、彼のチームはとにかく強かった。ホーム・ゲームの時は、常に最前列に俳優のジャック・ニコルソンの姿があった。

ジョンソンのバスケットは、まさしく “It's a show time !”。顔は左を向いているのにパスは右に出すし、股間を抜くパスやシュートを打つ体勢のままのバックパス、片手での凄まじいスピードのスルーパス、相手を牽制しながらの片手フックシュートも得意であった。当然ながら観戦チケットは全く手に入らなかった。

とにかく観ていて楽しい。ファンはみんな満足して家路に着いただろう。勝利の翌朝、デープは肩をゆすり、ステップを踏みながら研究室にやって来た。そして退屈な仕事？であるビーカー洗い、試薬調整、雑用などをこなしていた。この東洋人たちのために。

どんな気持ちだったのだろう

(このエッセーを書いている時に、偶然にも今季のNBAファイナルをレイカーズが勝ち取った、とのニュースが流れた)

#### 参考資料：

- 1.『マリス博士の奇想天外な人生』  
キャリー・マリス ハヤカワ文庫 2004.
- 2.『Magic's Touch』 Earvin “Magic” Johnson,  
Jr. and Roy S. Johnson. Addison-Wesley  
Publishing Company, Inc, 1989.



## 日本医師会から米寿の銀盃を頂いて

岩国市 藤本 典男

いつの間にやら、90歳近くまで生きているなあ、などと思っていた処、日本医師会から米寿のお祝いをあげるという報せが届いたのである。まもなく銀盃が届いた。(2020年11月)

大きさは直径14センチメートル近くもある、銀色の立派な物であった。100歳まで生きたら金色の物を呉れるかもしれない、欲張った事を考えたりもした。

40歳の後半から50歳前後の頃、高血圧に悩まされ、その頃は今にも死ぬのではないかと考えて苦しんでいたことがあった。と言うのも、ギャンブル好きで金は要り、その割に給料は安く、ストレスがひどく多かった日々が続いていたからである。

その頃は大阪に住んでいたが、あらゆる病院に行って血圧の治療を受けたが、血圧は下がるどころか上がる一方であった。それで故郷の山口県に帰り、老人病院に就職したものである。酷く疥癬が流行っている頃であった。

血圧の治療は同級生が岩国で循環器内科をしているのがいて、そこに通ったものである。初めて何とか、納得のいく医者であった。自分の体調が良くならないと、相手が歯医者に見えるものである。其れで、まずは医者に頼るばかりではなく、自分で動脈硬化を起こさないためにはどんな食事が良いか色々考え、それを50歳位から実行し始めたことにしたのである。

内科の医者は動脈硬化が進めばどのような結果が生じやすいかを知る機会があるが、皮膚科、耳鼻科、整形外科などの医者は、そういう機会が少なく、動脈硬化を防ぐ様な食事を考える事等は少ないものである。

その点、早くから血圧上昇で苦しんだ私には、

考えるチャンスが出来たのであった。そういった食事を今日まで何とか守って摂って来た。

それに同級生の内科医が出来の良い男だったので、指導も受け、治療も受け、その結果として、銀盃を頂戴したのではないかと考えている。嫁さんに言わせると、あの先生にかかってきたので、長生きができたわけだから、色々感謝しなければいけないそうだ。

私に言わせれば、適当な運動と食事が、かなり大切な物ではないかと感じている。それに、出来るだけストレスを少なくすることであろう。

運動と言えば、体力のあるうちは、ゴルフをよくやったが、ここ数年は歩くことが主体である。だいたい6千歩を歩く事を念願してきて実行したが、最近は5千歩ぐらいが多い。その代わり、野菜作りを5年間ばかりやっていて、食事は出来た物を口に入れる。

青物が朝と夕飯は、少なくとも二つは無ければいけないと、私は思っている。一つは汁ものである。みそ汁は日本人が長年とって来たその一つである。塩分さえ控えめにしたら、これほど口に慣れた良いものは無い。そこに多くの具を入れると、自然に植物繊維やビタミンやミネラル、抗酸化物質を体に入れている計算になる。植物はおそらくは老化を防ぐ多くの要素を持っているに違いない。二つめは、野菜の和え物である、魚のじゃこなどを共に入れたものが良い。その次に、サラダ風のトマトやレタスなど生の野菜が大きな皿に出る。若い者はこれを喜ぶ傾向にある。私は多くは煮た野菜が好きである。

元来、私達はアフリカで木の実を食って増えた生き物の子孫である。おそらくは、その実の多くはイチジクだったに違いないが、いずれにしろ植

物性のものを主食としたのである。

私もイチジクを一本植えているが、このくらい長く多くの実をつけ、続けて実らせる果樹を知らない。

背丈ほどの木が道路に面しているので、通行人も取って食べるが、それでも私も十分に食えるほど実るのである。いつの間にか果物の話になってしまっているので、野菜が十分摂れない人は、果物を摂るべきである。

肉や卵を多く摂っている米人も、果物は好きな様である。彼等にとって、野菜は肉皿の添え物のように見えるが、果物はかなり食べている様である。

秋は、私には嬉しい季節である。と言うのも、果物が多いからである。まず柿がある。私は戦時中の食料の乏しい時期に子供時代を過ごしたので、秋が来ると柿木に上って、飯代わりに柿の実を沢山食べた。だから柿を見るだけで、子供の頃の様に嬉しくなるである。

自分の家が出来た時に、庭に柿の木を植えた。それが今では結構なるのである。似た様な所に、ミカンの木も2本植えているが、これは大きくならず、数個しか実を付けない。

元来、海の遠い田舎に育ったので、ミカンには馴染めず、その育て方も良くわからない。然し、実のなる木を植えるのは好きである。

何しろ、食い物に一番興味が有り、その食い物で長生きできるかどうか、半分決まるかのように感じているからである。

40年近くも動脈硬化を起こしにくい食事を心がけたおかげか、まだ頭も働き、こうしてパソコンで物を書く気になるのも、まんざら悪くはない。運動の方は年と共に難しくなるが、それでも車に出来るだけ乗らず、歩く事を常に心がけている。

おかげで、あまり役に立つ人間ではないが、米寿のお祝いを頂いたので、感謝を込めて一文を書く。



## にっぽん再生論 教育（と道徳）編

徳山 望月 一徳

♪へんなおじさんっ！と手拍子で節をつけて人気をとったのは、志村けんさん（コロナ禍で没合掌）ですが、最近は本当に変な人が増えました。

コロナ感染予防とその撲滅のために、マスクは必須品となりましたが、機内でマスクを着けるよう注意されても、これを個人の自由と称して拒否。さんざん言いつのるので、機長の判断で目的地以外の飛行場に緊急着陸し強制降機させ、そのため二時間遅れになり多くの人が迷惑を被ったという事例です。似たような事件が二つ、続けざまに起きて、張本人はいずれも三十代から四十代の男でした。

台風十号（令和二年九月）が去って随分涼しくなりましたが、それ以前の暑さは、地獄の閻魔さまも裸足で逃げ出す、というほどの猛暑でした。

そんな暑さのさなか、若い母親が六歳と三歳の子供を車に残して、居酒屋を三軒、梯子酒をして車に戻ってみたら、子供が重度の熱中症でその後、間もなくして死んだというものです。若い母親の過失だとして片附けられない事例です（その後の捜査で、故意が疑われている。九月二十五日現在）。

次は、この頃では、めずらしくもない事例ですが、連れ子を持つ母親が男と同居し、男が連れ子を虐待、もしくはそれが嵩じて殺人に至るという事件は、枚挙にいとまがありません。母親も同居の男も多くの場合、二十代です。

医療界でもありました。筋萎縮性側索硬化症の自殺願望の患者に、主治医でもないのにSNSで接近し、わずか十五分の間に薬を投与しその場を去り、患者を死亡させたというもので、安楽死どころか殺人行為であることは、論を俟ちません。この事件の二人の容疑者も四十代です。

変な人を探せば、限りなく見つかるに違いありませんが、それが目的ではありませんので、症例はこれくらいにしておきましょう。

かくも二十代から四十代にかけて変な人たちが蔓延るのは、昭和にその原因を探さなければなりません。



第二次世界大戦で無条件降伏した日本は、アメリカが僅か一週間（たぶん）で作った憲法（メンバーには二十代の人もいたという）をあてがわれました。

ハーフ条約の第四十三条によると、戦勝国は、「占領地の統治権を掌握した際、被占領地の法律を尊重する義務がある」にも拘わらず、この即席の憲法を受け入れたのです（ドイツは受け入れなかった）。

その中で致命的な改悪は、教育制度で戦前の制度を廃棄し六・三・三制としたことです。

アングロサクソン（英米）は、百年の計を立てるのが得意で、その例として挙げるならば、米国は化石燃料は、自国は保存し他のものを使う計画を立て、国内の岩塩（とても大きく大きい）をくり抜き、ここに備蓄しているよし。世界中の化石燃料がなくなった暁には、これを取りだして使おうという作戦です。

農耕民族の日本人は、明日の天気を心配しながら今日に至っていますから、せいぜい一年先のことを考えるのが精一杯で、とても太刀打ち出来る相手ではありません。

戦後七十五年を経て米国効果が出て、日本人の崩壊（自壊と言つてよい）が始まっていることは、先の事例で証明されています。

これらの事例で示したように、この人間性の崩

壊を建て直すには、道徳を含めた教育の改革は喫緊事です。

まず、六・三・三・四（医六）制をやめて戦前の教育制度（六・五・三・三（医四）制＝小・中・高・大）にします。

この制度のいいところは、中学五は長いので受験を心配することなく本が読める、部活ができる、よき友ができます。高校三は、少年から青年へ変わる人生で最も多感な時期なので、本を乱読するもよし、仲間と酒を酌み交わし（期間中に成人式を迎える）哲学を論じるもよし、戦前は弊衣破帽で将来を語りあつたに違いありません。この計八年間が人格形成に極めて大きな影響を及ぼします。

現在の中三、高三の計六年間では、その都度、受験戦争に追われるため落ち着いて本を読むことができません。つまり精神的成長の機会が失われることが大きな問題なのです。

このとき日本人は、大きく成長しなければなりません。日本の将来にかかる最も大事な時期なのです。

教育と並んで大事なことは“道徳”で、これを必修とすると左翼のヒステリーどもが、どこがどう繋がって戦争になるか、やたらと「戦争をする気か」と言いつのります。道徳は、人間が生きてゆく上で必修の教養で、犬猫にこれはありません。

つまり、これを身につけなければ、犬猫並みになります。だから、先の事例の人たちは、犬猫並みです。

一部の日本人が、学校教育としての“道徳”を否定するのであれば、新渡戸稻造の提唱する「武士道」がよいと思います。

武士道とは、義（人の道、卑怯を憎む心）、勇（義を実行すること）、仁（慈悲、愛情、惻隱の情）、礼節、誠実、名誉、忠義、孝行、克己とあり、この内、軍国主義に結びつきかねない過度の忠義を取り除いた上で、復活するのがよい、と藤原正彦氏（數学者・お茶の水大学名誉教授）は、『この国のがじめ』の著書の中で提唱しておられます。

彼は、また日本人の武士道精神と美意識は、人類の普遍的価値となりうる。その来歴と言い、身につけるべき格好のものである、と言い切ってお

られます。



そこで、徳山医師会の日本の将来を憂う有志から成る「ヨコの会」（この会の発足は古く、会員の身分は、当初からヒエラルキーを採用している）のメンバーに『この国のがじめ』の一節を読んでもらい、今後の教育（道徳も含む）は、いかにあるべきか、また、武士道についての感想も述べてもらいました。

（注・ヨコの会とは三島由紀夫の盾の会にヒントを得た。従って身分表示は軍隊形式をとる）

①大城研二 分隊長（小児科・六十五歳）・・武士道＝潔さ、品格と考えています。ところが近年、日本で武士道精神が失われつつあるのも間違いではありません。

—「失しなわれつつある」で、いいんじゃない？もっと国語の勉強をするように・。大リーグでは、大量点差でスクイズ、盗塁など相手に恥をかかせるのは、暗黙のルールで禁止されています。「武士道」に反するからです。

—武士道は、アメリカ野球で実践されているようですね。あせるなあ！

王選手、イチロー選手は数多く記録を残しましたが、ガッツポーズをしたことはほとんどありません。これこそが武士道です。

「道」は道徳に通じます。柔道、そしてあえて「相撲道」と言わせてもらいますが、この二つはスポーツでないと思っています。（略）誤審で負けた篠原選手の潔さは武士道そのものです。

相撲道も乱れています。モンゴル出身の力士だけでなく日本人力士も品格がありません。（略）連勝記録を止められた戸田戦、ビデオで大鵬が勝っていたのが分かったのですが、「横綱として、誤審される相撲をとった私が悪い」これこそ武士道です。負けて苛立つ白鵬に教えてあげたい。

—「教えてあげたい」ではなく、「教えてやりたい」がいいです。白鵬は大鵬を尊敬しとると言うとったが、いいところはマネしとらんぞ！

大鵬は立派じゃった。白鵬の頻回の張り手、ひじ打ちは相撲道に反するの一。  
模範になるべき日本人がいなくなりましたが、新しいスターの大谷選手は武士道を伝えてくれそうです。  
—そう願いたいの一。

②杉尾嘉嗣 隊員（小児科・六十九歳）・・学校における人間形成の最も大切な時期は小学校、次に中学校、高校だと思っています。しかし、給与は逆の順番になっています。（略）小学校の教師は肉体的にも精神的にも最もきついと思われる所以、給与は最も多くすべきです。加えて、教育者とは言えない教師が多く、失望しています。（略）教育には、お金をかけるべきです。

—まったく同感じゃの一。小児科は学校教師と接触する機会が多いので、その発言（教師とは言えないような・）には、驚きを禁じえんの一。ここは思い切ってお金を投入すべきじゃの一。

③賀屋 茂 隊員（小児科・七十歳）・・安倍首相にはすごく期待していたので、道半ばで辞めることになり（略）。超一流国だった日本はいつの間にか平凡な国になっていました。拉致問題、憲法九条の問題など難しい問題に取り組みながら（略）、道半ばで体調を崩され辞任ということになり本当に残念です。

—教育の話はいつ出てくるんじゃろか？  
コロナにやられましたね（注：安倍首相のこと）。コロナで心痛が重なり病気が再発したのでしょうか。

—あのね、安倍さんのことはどうでもいいの。  
武士道は、どうなっとるの？

私も最近、めまいがするようになって、いろいろ薬を飲んでいます。

—あのね、あんたの病気のことは聞いとらんの！武士道はどうなんっとんの？

（略）早く（コロナが）終息してほしい。

—わしゃな、早く次の隊員の話が聴きたいわ！

④谷村 聰 隊員（小児科・五十七歳）・・（略）藤原正彦さんの著書は多数読ませていただき、大変感銘を受けています。武士道についての説明ですが、至極ごもっとも！と感じています。（略）個人的意見を述べさせて頂きます。

—短い文章に「いただきます」が二回も出てくるのが、気になるの一。出来るだけ「いただきます」は使わないようにしんさい！鳩山元総理がこの言葉を頻発するので、新婚初夜に、「それでは、やらせていただきます」と言ったかどうかで政府内で甲論乙駁し、政治がおろそかになったとの噂があったの一（ありません）。

戦後教育は米国が全て取り仕切って改悪してしまい、（略）戦後に日本国の道徳教育が廃れてしまったことが悲劇だと思います。この中には武士道も含まれると思っています。（略）現在の金持ちといわれる方は自身の子供もつくりず、周囲の子供の育成にも目も向けず、ひたすら自己保全の財産つくりに励むのみです。（略）米国では優秀な人材は、ビル・ゲイツ財團のように金持ちがあちこちに出資して人にも芸術にも支援をしています。

—お金が貯まると、外に子供を作る人が多いと聞いているが、この頃の金持ちは内でも子供を作りませんか？少子化で困っているときもあり、せめて内には作ってもらいたいもんじゃ！アメリカではビル・ゲイツが支援していますか？それじゃ日本は勝てんわな。しかし、自前のノーベル賞受賞者数は、日本はどこにも負けとらんぞ！政府も潤沢な予算を出して欲しいな。

つまり、戦後米国は良い教育方法は日本には持ち込みます、日本をつぶす教育方法を押し付けて現在に至っていると私（谷村）は、思っています。それを甘んじて改善させようとしない政治家ばかりだったことも日本にとって不幸なことになっています。以上、感想でした。

—隊員の中で一番若い（五十七歳）人が、一番よく理解しておる（とくに日本をつぶす

教育方法云々は、よく分析できており秀逸です)ので、隊長も嬉しい。いつ死んでもええ!しかし、隊員の高齢化が進んでおるのは、なんとかせんにやなあならんのう!次の人も高齢じゃ!

⑤堀田 尚 予備役(小児科・八十五歳)・・個性ある人間形成のためにには、武士道精神の復活(戦争は否定の上)が大切。森、加計、桜は当事者達の名誉感、資質、フェアプレイ精神の欠如が原因であり、卑怯な対応が目に余る。こんな人に政治は任せておけない。かつての教育の場は、教師は武士道精神で生徒のことを考えていた。(略)現時代での教育の立て直しには、教育委員会の教師(校長)への権限の削除と何よりも理屈に合った体罰の復活が人間形成に即効だと考える。

—彼が過ごした小学生時代は、体罰が当たり前で「体罰を受けた原因、教師の対応、その後体罰して諭していただいた教師への評価は、いまもってクラス会の際、好評です」(「 」堀田予備役の原文のママ)とあるが、この人の話は、硬いの一。もっと、軟こうにならんもんかの一。わかりやすうに言うと、ちゃんとした理由があり、その後のフォローが良ければ体罰は、認めるという現在のママ連が聞いたら卒倒しそうな理論じゃのう。大賛成じゃ!

以上、五人のヨコの会々員の意見を総括すると、武士道(過度の忠義を取り除いた)の復活を認めるのが①大城④谷村⑤堀田であり、教職の人々への経済的な援助を②杉尾④谷村が主張します。③賀屋隊員は、めまいのせいで今回は不本意なことになりました。次回のヨコの会での発言を期待します。



にっぽんの将来を担う若者を育て、にっぽん再生に至るには、長い時間とたっぷりの資金が必要です。政府の指導と潤沢な予算をお願いしたいものです。

いつはじめますか?

林修先生に倣って、それこそ「いまでしょう!」  
アングロサクソンの向こうを張って戦後七十五年を折り返し点として五十年計画で、にっぽん再生を成し遂げもらいたい。

ぜひとも教育制度を日本独自のもの、すなわち旧教育制度の復活を望みます。

これにより有為の人物が続々と輩出するところとなり、五十年後の日本は、東洋の国々からは勿論、遠く西洋の国からも畏敬され、一目置かれる国として復活を遂げているに違いありません。

これこそが、長く待ち望んだ真の“にっぽん再生”にほかなりません。

フレーフレー にっぽん! チャツ チャツ チャツ!

望月一徳(昭十三生・広島県出身)

令和二年九月吉日

#### 追記

①この論文は、ヨコの会の皆さん(大城・杉尾・賀屋・谷村・堀田氏)の協力のもとに完成了しました。

②旧教育制度については、野間慎朗先生(昭六生・旧制松山高校入学)と村田雄三郎先生(昭三生・長崎医大卒)に聴きました。

③ハーグ条約に関して山下武右先生(昭十一生・内科医)に意見を聴きました。

ここに厚くお礼を申しあげます。



## 自分の命の終焉を考えてみる（後編）

宇部市 渡木 邦彦

### （3）誕冠婚葬祭（通過儀礼）とその意義

通常では、冠婚葬祭と言っています。が、正確には、誕冠婚葬祭です。これは人生の通過儀礼のことと、『広辞苑』によれば、通過儀礼とは人の一生に関する、誕生・成人・結婚・死亡・先祖供養などの儀礼習俗と記されています。この通過儀礼というのは、世界のどの大宗教においても、大きな役割を果たしているようです。巡礼・洗礼です。キリスト教の洗礼、イスラム教の巡礼はとみに有名で、信仰に入るための重要な儀礼的意味合いを持つています。

日本では、明治中期頃までは、頬もし講を組んで、お伊勢参りや富士山詣でが行われていたのです。最近、それらは廃れてしまいましたが、宗教的通過儀礼として誕・冠・婚・葬・祭と七五三がそれらに相当し、現代でも継承されています。哺乳動物の中で、祈りと儀式の崇高な行為を執るのは人間のみです。高等動物と称されるチンパンジー やゴリラでも、人の祈る姿（合掌・祈願）を真似る行為は可能ですが、その行為の真意を理解して訳ではありません。祈り（合掌）と儀式という行為は文明の発達につれ、心の表現事項として宗教上からも重要な意義を持つようになっていっているのです。要するに、人の生涯の中で、その儀礼習俗を経ながら、自分の人生を意識し、記憶に留め置きながら、試練を乗り越え、成長していくということなのです。親はそれを印象儀式として子に伝え、子はこの儀式を記憶して成長するのです。誕（初参式：寺社参り、本人の記憶無し）、冠（元服式：明治時代以前、人生50年時代の元服式です。一人前の大人として、個人的には名字帶刀、飲酒、就業、婚姻が可能だったのです。社会的には就業可、徴兵可）、婚（結婚式）、葬（葬儀）、祭（祭祀、

先祖供養のことです）。最近の社会通念では、祭の真の意味が正しく悉知されているとは言い難いようです。村祭りや秋の神社大祭のことではなく祭祀のことであり、先祖供養のことなのです。ここでしっかりと祭の真意を理解して戴き、親である自分が、祖父母までの供養ができれば充分なのです。先祖供養は、継続する意志を持って実行すれば、必ず子孫に繋がります。しかも、この場に及ぶと、家の宗教、菩提寺の問題が露出してきます。これらが不明な方には良い機会ですのでチェックして、子や孫に伝えることを前提に行動に移されるのが宜しいかと思います。

「七五三」とは、1687（貞享4）年にあの生類憐れみの令を発令した五代将軍徳川綱吉公は、子宝に恵まれず、側室との間に出来た子も乳幼児死亡でなかなか育たなかったので生類哀れみの令を出したようです。当時は、江戸に限らず世界中どこでも乳幼児死亡は高率で、3歳までの順調生育は稀でした。そこで貴重にも授かった子が、3歳まで、5歳まで、7歳まで無事育ったと奇数隔年に生誕祝いをしたのが七五三祝いの始まりで今日に至っている祝儀です。

我が子に晴れ着を着せ、その成長に眼を細め、ニンマリしたご記憶をお持ちの先生方も数多いらっしゃるはずです。この人生の通過儀礼は、子供にとって人生の節目を自覚するための確認点でもあるのです。派手にしなくとも、可能な限り親二代が子（孫）のためにする慶弔行事です。

通過儀礼の挙行は、初参式から葬式まで、神社（神道）でも菩提寺（仏教）でも構いません。ただ、初産式は神社で、結婚式は教会で、葬式はお寺でというのはあまり褒められた行為ではないと思います。命に対する根本哲学や信仰様式が全く

異なっているからです。日本では宗教に対する無神経な接触のことを宗教音痴と表現しているようです。神道の方は神社で、仏教徒は人生の全ての通過儀礼を菩提寺で一貫して執り行うべきです。キリスト教でも人生のすべての儀式はそれぞれに定められています。宗教儀式の哲学を信者以外が熟知することは無理です。

#### (4) 葬儀・法要・先祖供養の意義とは

人類が地球上に生存し、己はそのうち絶対死ぬということを自覚して以来、宗教は各地域・各民族にとって形式・儀式の方式は各々異なっていても依然存続し、「死の恐怖」「死後の世界」についての安寧を説き続けています。逆に、死の儀式に関与しない宗教は皆無なのです。

仏教で、この葬儀を儀式化したのは中国禪宗で、禪宗は死者に法語を説いて開悟に導くのです。一般民衆に引導を渡す仏式葬儀を始めたのは、中国の禪僧百丈懷海です。彼が母親に行ったのが最初だと記されています。当然日本仏教でも、葬儀を儀式化して執り行ったのは曹洞宗が最初です。道元禪師が中国から持ち帰り、紆余曲折しながら儀式化され今日に至っています。曹洞宗では、「檀信徒葬儀法」に則って行われますが、葬儀の中心となるのは、授戒（戒名や血脈の授与）、念誦、引導の三つで、この中で注目すべきは「引導」です。引導とは仏道に導く意味であり、死者に法語を説いて開悟に導くことをするようになったのは禪宗が最初とされています。ちなみに鼓鉦（太鼓・銅鑼・鉦）を打ち鳴らす（大雷という）のも、神や祖靈を迎えたり送ったりするのも、中国伝來の儀礼法です。チン・ポン・ジャラーン、チン・ポン・ジャラーン、繰り返し打ち鳴らすのを聞くと何となくもの悲しい擬音が身に沁みます。

「螢山清規」（1324 年成立、清規＝規則）に、在家信者へ向けた供養が記されており、14 世紀頃から徐々に在家信者に対する行儀が明文化され、定型化されて今日に至っています。

禪宗系は、授戒を重んじます。死者を開悟に導くのに戒名を必要とします。法外な戒名料を吹っ掛けられたとか、真宗系のお坊様や葬儀社では、戒名不要などと独断的発言をして、巷では寺のあ

らぬ金儲けの槍玉に挙げて、戒名を疎んじる風評が流されているようです。

生前に檀信徒の方が菩提寺に貢献されたり、お役職に就かれた方々には、お寺様からそれ相当の戒名を授ける仕組みになっているのをご存知ないのです。我々の檀信徒間ではそういった苦情は聞かれません。

逆に、殆ど菩提寺と法縁も薄くて、長い沙汰止み状態のお檀家が突然、葬儀の依頼に寺へ駆け込むと、ご住職から「戒名は如何致しますか」の問い合わせに、自分の親でしたら「何でも構いません」「不要です」とぞんざいには回答しませんでしょう。やはり「ご遺体には相応しい戒名を」ということになると、戒名料は必然です。浄土系とは信仰形態の違いがあり、葬儀の入魂の仕方までもが異なっているのです。

寺院（お寺：宗教法人社団）とは、有り体に申せば、境内敷地、ご本堂、檀信徒会館、納骨堂等は檀信徒の所有であり、お寺様（住職ご一家）の個人的所有物ではありません。そこで宗教法人として檀家集団と共に菩提寺の存続維持として法事でのご仏前や年会費で境内の維持管理を賄っているのです。僧侶は、釈迦仏教以来、生産労働は今でも禁止事項です。だから、お坊様の収入というのは、種々の法事や葬儀のお礼をお布施としてお納めしており、規定料金というものはありません。僧侶は労働で賃金を得ることは仏教宗教的にも本来的にも禁止されているのを知り、檀信徒各位がそれぞれに可能な布施をすれば十分です。檀信徒側においてはご住職にきっちりした法要行持を執り行って戴くのが有り難さの極みであり、説法聴聞を戴けることです。

曹洞宗は室町・戦国時代に、全国に信者を増やし、各地に寺院を建立し、さらに檀越（施主）である武士の葬儀に戒名を授け、引導を渡して火葬や土葬を盛んに施行しました。この弔意行為が一般民衆にまで伝搬し、他宗派（浄土真宗を除く）でもこれに倣って在家信者の葬儀が行われ、伝搬してきたのです。江戸幕府が宗旨人別帳や檀家制度を混乱無く確立できたのは、この様な下部組織の存在のためでした。

では、葬儀にはどんな意義があるのでしょうか。

言うまでも無く、誰もが例外なく必ず死亡し、自分の葬儀は遺族か他の誰かに執り行って戴く他、術はありません。大切な事柄は、喪主は誰のために葬儀をするのか、遺族としてご遺体をどう祀りたいのか、どう送りたいのか、喪主がこの哲学を納得していないと、喪主の故人への懷慕、謝意、悲嘆等の複雑な心境は葬儀では心底出せません。葬儀社の成すがままに流されて、無駄な出費をむしり取られます。

親は故人となり、故人と縁はこれで断ち切りましたとはしたくもないし、思いたくもないでしょう。これまで授かった親からの恩にどれ程報えたのか、です。それと親にも知人が数多いたのです。その方々にも最後のお別れをして戴ける配慮と余裕があれば最高の葬儀（深い惜別・悲嘆・思慕の籠念）になる筈です。

次に、故人を偲んで供養する、一周忌、三回忌、十三回忌などの年忌（年回）法事を一般に法事と呼んでいます。この法事とは、仏との縁を結ぶ（結縁）するものなのです。故人が亡くなった同月同日を「祥月命日」、毎月の命日を「月忌」といいます。法事の日程は祥月命日に合わせ、一般的には「命日を過ぎてはいけない」との言い草がされていますが、命日に拘らずに、法事にはより多くの人が結縁できるように調整して開催するのが一番です。そのために日を遅らせても近くの休日に催行されても一向に構いません。バチが当たる、祟りがある、聖なる行為に何という俗卑的風評でしょう。法事に参列する方々の心や思いが滲み出ればそれでもう十分です。

さらに、初七日から七日毎に法事を営み、七七日（四十九日目）を「忌明け」とするのは、下記の如き謂われがあるのです。

お釈迦さま以前のインドで「七」は宇宙の基数（宇宙を起源とする数）とされ、死者は七日のうちに生まれ変わるだろう、それが出来なければ次の七日以内にと、最長7回の七日のうちに生まれ変わるだろうと考えられていました。そこで四十九日目に中陰法事を営むようになったようです。中陰とは「死から次の生」までの期間を言い、「中有」ともいいます。これがインドから中国へ伝わると、儒教思想での供養には「百日日」

と「一周忌」と「三回忌」が加わりました。亡くなった翌年が一周忌、その後は亡くなった年を1として数えて2年目が三回忌となるのです。そう、数え年と同じ数え方でカウントするのです。

これらの法要の回数を足して十とし、死者は冥界で十王の裁判を受けると考えたのが中国の「十王思想」です。まず、閻魔大王の裁きです。

この様式が平安時代に日本に伝わり、さらに「七回忌」と「十三回忌」と「三十三回忌」が作られて十三となり、十三仏が死者を守ってくれるという考えが鎌倉時代に定着したのです。初七日から三十三回忌の法要までは「十三仏事」といって、それぞれの十三王の本地仏（本来の姿）を祀ります。三十三回忌を「弔い上げ」といいますが、それは親が死んで、親を個性ある人格として認知しているその子供が死ぬまでの期間が約30年ほど（一代：one generation）の長さだからです。子供として親の三十三回忌を勤めるのがおおよそ最後の計らいとなるようですが、さらに長寿社会となれば一世代30年はまだ先に延びるかも知れません。孫の代になると、その死者は人格のない「先祖」として祀られ、最後は「神」になり、日本では高い山や小高い丘や大きな岩や木等に宿っていると思われているようです。

ついでに、施食会（施餓鬼会）について述べておきます。施食会は、六道（天道・人間道・修羅道・畜生道・餓鬼道・地獄道）の中の一つである餓鬼道（生前に善行の乏しかった人が墜ちていく処）に落ちて苦しんでいる亡者（餓鬼）や無縁仏に、食べ物を施して供養する法要で、お寺の重要な行事です。本来は特定の日に行われる法要ではなかったのですが、現代ではお盆（盂蘭盆会）の行事の一つとして必定に行われる事が日本佛教では一般的です。

偉そうな御託を申し述べました私は、事情とご縁を戴いて、実家の宗派とは異なる曹洞宗に改宗致し、もう四半世紀過ぎました。子や孫達を連れての盆暮れの墓参は過去50年以上欠かすことなく続いております。小中高生の孫達も「般若心経」を空で唱えています。

人というのは、自分だけで生きていて誰にも何の世話にもならずに暮らせてると思うのは、ホン

の上っ面、大傲慢、バチ当たりです。どれ程多くの方々のお世話を戴いて（勿体ない）、（お陰様）に支えられて日々を怡も何事も無かったかのように家族一同生かされて生きているのです（有り難い）。と、こう実感できているのが仏教の教えの真骨頂なのです。私の人生はダウントン真っ最中、しかも来年は傘寿です。それでも、下り坂には下り坂の風光が在ります。それを從容と受け入れて感謝しつつ生きていかねばと念じております。さらに少し欲を出して利他行で何か布施行ができれば、これはもう素晴らしい仏心で人生の終焉を迎える前兆だと頭では思い描いても何も出来ず、凡夫の私にとっては煩惱や欲望まみれの毎日で、いくつになっても滅尽できません。命の終焉は、誰にもいつかは漏れなくやって来ます。生死をどう捉えて終焉を迎えるのか、一切不明です。過去を追うな、未来に鎧るな、願うな、たった今、この時に何が己の懸命な生き方なのかを模索せよ、この積み重ねがいい明日に繋がると。暮らしの中の行・住・坐・臥（四威儀）の全てが修行で、無駄のない、無礼のない動きの生活禅です。曹洞

禪は目的を抱かず只管打坐、身心脱落と厳しく教えています。解らないことが解る、それが悟りだと。一方、臨済禪は坐禪に慣れると、公案といって、一休禪師でお馴染みの「説破」「作磨生」の禪問答が繰り返されて、悟りの境地へ近づいて行くのです。ここが臨済禪と曹洞禪の坐禪法の大きな違いです。風評で、日本人の寿命は直に百歳否百十歳になる、更には超高齢時の宗教離れ、宗教無用論、等々と喧くなる様です。しかし、仏教とは、禁貪瞋痴、滅尽煩惱欲望、発心研鑽・自己管理、死後界不明、が仏教哲学の根本で、絶対神も存在しません。殊に死後世の疑問は釈尊仏教から無記（無回答）です。世相はどう動こうとも、己の死をどう受け止めてどう生きるのか存命の日々に誰もが問われ続けているのです。

人の死の周辺境遇、葬儀法要、先祖供養の意義、禪宗系の教説等を述べさせていただきました。浅学駄文のご精読に深謝致します。合掌



## 俳句ギャラリー

ふしの句会（山口市医師会）

山茶花の途切れるところ茶席立ち  
初手水青竹ならぶ井桁かな  
山眠る狐はうそ寝してやも

蚯蚓鳴く順延工事再開へ

秋晴の広場に集ふホリデーオート  
池越えや紅葉且つ散る打ち直し

末兼浩史

杉山元治

うす墨の海へひろがる能登時雨

佐々木映子

留守番の膝を抱へし夕時雨  
第三波ビルの外壁蠍枯る

初明かり画聖の庵は音もなく  
友よりの賀状の数に思ふこと

坂本強

翳したる手の触れ合ふもどんと焼

朝寒や走り抜けたるランドセル  
ほろほろと葉の舞ふ街に時雨かな  
侘助や異国に学ぶ子の覚悟

今村孝子

ラフからのショットの後は草虱  
バー・デイーを狙うパットや紅葉散る  
池あればショットは池へ枯野かな

淵上泰敬

バス降りて二つ三つ咲く秋日傘  
団栗や繩文人の落とし物  
流星や名残りを引きて消えゆきぬ

成重隆博

## ペリリュー島 慰霊の旅

下関市 上領 賴啓

人生の最終段階に入って思い残すことは無いかと、ふと自問自答したところ、あれもすべきであった、これもすべきであった、と二度と無い人生に後悔の日々である。待てよ、一つ長い間、筆者の頭の中に持ち続けたものがあった。それは、先の太平洋戦争の最中、異国の地で散華した日本人将兵の慰霊である。そうだ、残りの人生を戦没者の慰霊の旅<sup>たお</sup>にして、戦陣で斃れ、戦禍に散った日本の将兵や軍属の墓前に深甚なる感恩の情を捧げようと、それで此れ迄シンガポール、マレーシア、ベトナム、サイパン、テニアン、グアム、ミャンマーと慰霊の旅をし、此の度は西太平洋の最大の激戦地パラオを訪ねた。

平成30年3月18日、福岡空港よりユナイテッド航空の飛行機でグアム国際空港を経由してパラオ共和国バベルダオブ島のアイライ空港に着いた。パラオ共和国はミクロネシアの586の島々からなる人口21,500人の

独立国である。独立前のパラオはスペインを始め、ドイツや日本の植民地となり、太平洋戦争終結後は米国が太平洋諸島信託統治領として信託統治下においていた。その後紆余曲折を経て1994年に米国に軍事権、外交権を認めた自由連合盟約国として独立を果たした。

パラオを訪れる外国人は、その殆どが観光目的であり、珊瑚礁の美しいエメラルドグリーンの海は俗界から一時的に天界に身を置くことが出来る。私も南国の強

い陽射しを背に受けながら純白の砂浜のロングビーチでシュノーケルを着けて珊瑚礁の海を覗いた。水槽の熱帶魚を観察するが如き黄色、赤色、青色等様々な色をした大小の魚が、海流で揺らめく色とりどりの珊瑚の中を巧みに泳いで行く。中には恐れもなく我が身の直ぐ傍を泳いで行く魚もある。太陽の光の束はどこまでも透明な真っ青な海水の中に差し込んで来て、魚鱗の天然色を際立たせる。一匹の美しい鮮やかな赤色をした魚を追いかけて行くと、瑠璃色をした小さな可愛い幼魚の群れに出会った。そーっと近づいて手を伸ばして掌で掬ってみると。1~2匹が掌に入るや、掴もうとすると指の間からスルッと逃げる。少年時代を思い出した。あの時も焼けるような太陽の下で、家の直ぐ前の海岸の波打ち際で小さな鰯を砂ごと手で掬って・・・、その時と変わらぬ今の自分の行動に苦笑した。



写真1 零戦の残骸

翌日、太平洋戦争の激戦地ペリリュー島の戦跡を訪ねるため、ペリリュー島戦跡ツアーに参加した。ペリリュー島は私が宿泊したコロール島から南約 50km に位置し、スピードボートで 1 時間 15 分のところであった。まばゆいばかりの青い海と深い緑の森の楽園パラオに来て、第二次世界大戦の戦跡を訪ねるような若者はいないと思っていたら、意外にも何人かの若者がツアーブックを手に参加していた。日本人観光ガイドの案内で車に分乗して戦跡を回った。戦跡はパラオ共和国の法律によって保存されており、島の至る所に激戦の傷跡が残っていた。亜熱帯の木々や青草が生い茂る中で擱坐した戦車が鋸びついた機関砲の前部を破壊されて哀れな姿を留めていた。また、或る所では草蒸したジャングルの中で戦闘機が主翼を失い胴体部分だけを残して樹間に突込んでいた(写真 1)、また或る所では軍用トラックがフロント部分を土に覆われて無残な姿を見せ、また或る所では蔓草に覆われた赤茶けた高角砲が砲身を海岸線に向けていた。連隊本部は洞窟の中にあり、中を覗くと穿かれた壁は火炎放射器を浴びて黒ずんでいた。海軍司令部の建物はペリリュー島では最も大きな建造物であったと云うが、今は朽ち果て廃屋と化していた。これらの腐朽した残骸や阿鼻叫喚の地獄絵を呈した戦野の残痕は不条理な戦争の惨烈さを今に伝えて

いた。餓えに苦しみ、怪我に苦しみ、そして妻や肉親や恋人との愛別離苦に耐えながら、猶、祖国愛に燃えて勇敢に戦い、利非らずして散華した日本兵は何と 10,000 人以上であったと聞く。

太平洋戦争末期の昭和 19 年、ペリリュー島は米軍の来襲に備えて、連隊長 中川州男 大佐(戦死後中将)が率いる歩兵第二連隊を中心とする精銳部隊が守備をしていた。米軍は飛び石作戦でサイパン、グアム、テニアン、トラックの各島の日本軍陣

地を物量に物を言わせて攻撃し、各島の守備隊は壮絶な戦いの後、次々と玉碎している。7 月にはペリリュー島は米軍の機動部隊による空襲と戦艦からの猛烈な艦砲射撃に曝され、日本軍基地は壊滅状態になった。9 月に入り米軍はペリリュー島に上陸を果たし、山岳地帯に防空壕を掘り、砲台を据え付け、トーチカを設置し要塞を構築して待ち構えていた日本軍との間に屍山血河の凄惨な戦闘が行われ、それは 2 ヶ月に亘って繰り返された。日本軍ペリリュー島守備隊は米軍の猛攻に遂に力尽き、中川大佐は玉碎を意味する暗号電文「サクラ・サクラ」をコロール島のパラオ司令部宛に伝送し、11 月 24 日にペリリュー島司令部のある洞窟の中で第十四師団付き 村井權治郎 少将と共に自決した。これをもってペリリュー島の日本軍の組織的抵抗は終焉した。日本軍の戦死者は軍属を含め 10,022 名、西太平洋における米軍との戦闘で最も大きな犠牲を払った戦いであった。ガイドは中川大佐が自決した連隊本部のあった壕に我々を案内した。辺りは鬱蒼とした樹木に囲まれ、そこには鎮魂と彫られた石を載せた慰霊碑が建てられていた(写真 2)。私が一番前に拝跪して、鳥の囀りも小動物の鳴き声もない森閑とした中で碑文を大きな声で読んだ。私の背後でペリリュー島戦跡ツアーに参加した人達が静かに聞いてい



写真 2 第二連隊慰霊碑

た。読み進んで行くうちに哀感胸に迫るものがあり、感極まって自分の声が震えているのが分かった。すると、背後の参加者の中からすすり泣く声が聞こえて来た。読み終わって、多くの尊い人々の血を流した戦争の悲惨さが肺腑を抉り、尽忠報国比類なき将兵の玉碎に慟哭する思いであった。碑文にはこうある。「前文略・・・、11月24日 中川大佐はこの場所において軍旗を奉焼し「サクラ、サクラ」の決別電報を発したのち作戦指導のため派遣された村井權治郎 少将とともに従容として自決。行動不能の重傷者約40名は陣地を死守。

根本甲子郎 大尉以下56名は遊撃戦に転じて壮烈な最期を遂げた。ここにペリリュー島有志の人々とともに祖国の平和を念じて戦没した英靈の安らかな眠りと部隊終焉の戦跡が永遠に保存されることを祈り鎮魂碑を建立する。戦後、米軍から中川大佐の妻に遺骨返還の申し出があったが、彼女は「まだ多くの部下は故郷に帰れずに居ります故、遠慮申し上げたい。すべての方が帰ってから、中川は最後で構いません」と辞退したことである。読者諸兄・諸姉聞かれたか、この気高い鞠躬如<sup>きつきゅうじょ</sup>とした言葉を。胸を震わせる名状し難い哀切・悲愴な思いが伝わって来る。ペリリュー島の攻防戦は筆舌に尽くし難い激戦であり、敵将二ミツ太平洋司令官をして「ペリリューの複雑極まる防備に打ち克つには、米国の歴史における他のどんな上陸作戦にも見られなかった最高の戦闘損害比率（約四〇パーセント）を甘受しなければならなかつた」と言わしめ、島に建てられたペリリュー神社の記念碑に次のような詩碑を寄せている。

「TOURISTS FROM EVERY COUNTRY  
WHO VISIT THIS ISLAND SHOULD BE TOLD  
HOW COURAGEOUS AND PATRIOTIC WERE  
THE JAPANESE SOLDIERS WHO ALL DIED  
DEFENDING THIS ISLAND」

「諸国から訪れる旅人たちよ この島を守るために日本軍人が いかに勇敢な愛国心をもって戦い そして玉碎したかを伝えられよ」

ガイドの説明によると、既に制空権と制海権を握られ、無線機も破壊されて使用不能の状況下で、

ペリリュー島の野戦部隊から司令部のあるコロール島への連絡の手段は無く、已む無く50kmもの距離を泳いで伝令することになり決死隊を募った。海域には敵艦艇からの機関砲やグラマンの機銃掃射が待ち受けており、また激しい潮流が行く手を阻み、その上、人食い鮫の群れの中を泳ぎ切って目的の司令部に機密書類を届けることは万に一つの僥倖を信じるしかなかった。中川大佐の指揮下でペリリュー島を死守する大隊長 飯田義栄 少佐は屈強無比の肉体と鉄心石腸の精神をもった奈良四郎 少尉（後中尉に昇進）を決死隊の指揮官に下命し、奈良少尉はこの重大任務を感激して受けた。奈良少尉は志願兵の中から、幼い頃から荒海を泳いで来た沖縄県糸満出身の16名の兵士を選し、天佑神助を信じて彼らとともに敵の照明弾が照らす不気味な死の海に入って行った。伝達は「比島決戦に必要とする重要な情報」即ち飯田大隊が敢行したペリリュー島逆上陸の戦法と「もうペリリュー島は援軍不要」と云う悲痛な内容であった。奈良少尉を指揮官とする17名の決死隊は米兵の監視を避け、夜に泳ぎ、昼は島の海岸伝いを隠れながら歩き、椰子の実やマングローブの葉で喉の渇きと飢えを凌ぎつつ夜を日に繰いで12日掛かって司令部に辿り着いた。辿り着いた者は僅か4名であったと云う。

平成27年4月9日、天皇陛下（現：上皇陛下）は皇后陛下（現：上皇后陛下）と共にペリリュー島を訪問され、平和記念公園の戦没者の慰靈碑に白菊の花を供えられた。私も家内と共に邦家の安寧を祈り、国體護持の礎にならんと陣没した将兵の慰靈碑の前で深甚なる感謝の黙祷を捧げた（写真3）。当日は天候も良く、遼々として広がる太平洋に面した公園に慰靈碑は祖国日本に向かって建てられていた。戦陣に斃れ祖国の土を再び踏むことの出来なかつた将兵は、どんな思いでこの太平洋を見つめていたのだろうか。恐らく望郷の念にかられながら現世に決別の言葉を残して逝ったに違いない。

パラオ最後の日にセスナ機に乗ってパラオを空から俯瞰した。紺青の海と紺碧の空とが溶け込んだ、実に悠揚とした世界が広がるパラオ群島。濃い緑の樹木にすっぽり覆われた多くの大小の島々

が海に浮かんで見えた。長汀曲浦の海岸線は汀がインディゴブルーやコバルトブルー、ターコイズブルーに光っていた。この長閑な楽園の島で76年前に日米が干戈を交え、死闘を繰り広げた島とは誰が想像出来ようか。海も空も今は何も語らない。しかし海底には多くの撃墜された戦闘機や戦艦の残骸が眠っている。

私が産声をあげた昭和18年は太平洋戦争の真只中、前年のミッドウェイ海戦では帝国海軍の誇る空母加賀、赤城、飛龍、蒼龍の4艦が米軍機動部隊の猛攻を受けて海底に歿し、この敗北を機に山本五十六 連合艦隊司令長官戦死、ガダルカナル島撤退、アツツ島玉碎と戦況は悪化の一途を辿り、戦争遂行のための国家総動員法で若い日本国民男子は召集され、約230万人の将兵が散華した。私の高校の同期生の中には、父親が出征して戦野で没し、父親の顔さえも知らない学友も何人かいる。その父親は今は静かに靖国神社に眠っている。

思うに、戦争のない平和を唱えるからには実際に戦禍の悲惨さを残す戦跡を訪ねて、祖国のために戦い斃れた将兵の水漬く屍、草生す屍に哀悼と感佩の念を示してこそ、平和を希求する切実な思いが生まれて来る。似非平和論者が観念的に「平和、平和」と連呼して、いつも簡単に平和な世界を現出出来ると思っている

が、しかし地球上には多くの人種、様々な宗教、種々の政治形態や多様な経済の枠組みがあり、それらが複雑に絡んで現在も世界のあちこちで戦争や一触即発の緊張状態にある。平和な世を確立するのは容易なことではない。

此の度のパラオ慰靈の旅で、ペリリュー島における辛苦酷烈な環境で生を終えた多くの将兵の無念さを思う時、改めて戦争の無い時代に生まれた有り難さを感じる次第である。

擱筆に当たり、馳文ながら本紀行文をペリリュー島で散華した将兵の御靈に捧げたい。

#### 参考文献

- 1) 「太平洋戦跡紀行 ペリリュー」 西村 誠  
光人社 2007
- 2) 「『玉碎の島』 ペリリューから帰還した父」  
ゆき恵・ヒアシュ 潮出版社 2018
- 3) 「太平洋戦争全記録 あの戦争(下)」  
産経新聞社編 集英社 2001
- 4) 「戦跡を歩く」 牧野弘道 ホーム社 2002
- 5) 「今何を語らん」 平成15年度派遣報告書  
NPO法人ジェイワイエムエイ 2003
- 6) 「ペリリュー島玉碎戦 南海の孤島 七十日の血戦」  
船坂 弘 潮書房光人社 2018
- 7) 「地球の歩き方 パラオ」  
ダイヤモンド社 2019

本紀行文は「友愛と奉仕：Vol.85. 下関東ロータリークラブ.2019～2020」に掲載の“ペリリュー島慰靈の旅”に一部加筆・修正した。



写真3 平和記念公園

## 江戸の旅人といわれた松陰先生 ～長崎から青森まで～

萩市 山本 貞壽

この拙文は、第18回「学びながらのウォーキング大会」(山口県医師国民健康保険組合の毎年の行事で令和元年は11月24日の日曜日に萩市の萩城付近にてウォーキングが行われた)において、萩セミナーハウスにて行われた講演会の講師の指名を受けていた私が同題のお話をいたしました内容、また、話したかったことが骨子になっています。

### お詫びと言い訳

前日（23日）に福島県会津若松市の行事に出席していました、夜行寝台列車と新幹線で朝方に

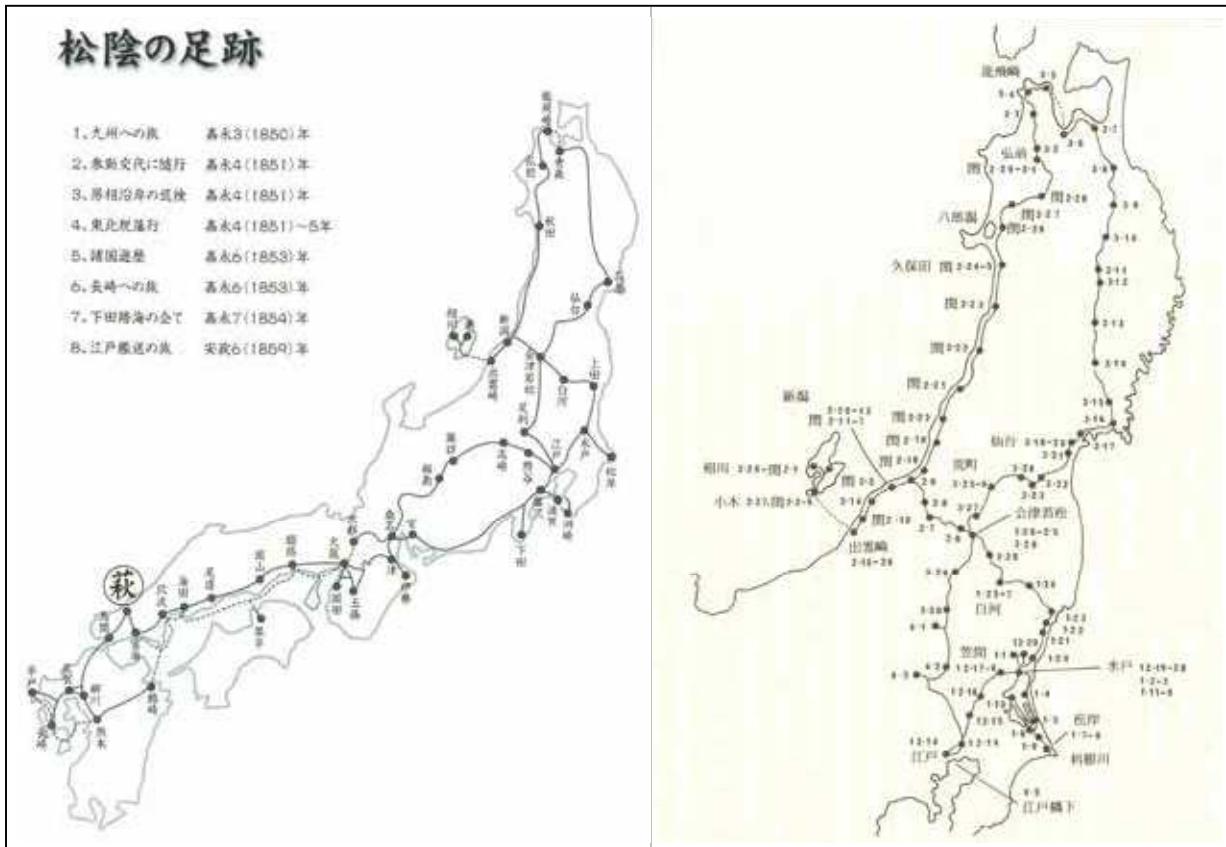


図1

海原 徹 著『吉田松陰と旅』  
(至誠館大学ブックレットシリーズ  
萩ものがたり [35]) より

吉田松陰（1830～1859）は短い生涯に1万2千kmに及び旅をしている。『東北遊日記』は友人との信義のため脱藩の罪を背負っていたが、北辺の守りを見る目的も持っていた。（海原 徹著『江戸の旅人吉田松陰』より）

新山口駅へ、そして会場へと駆けつけた慌ただしさの中で、また、80 歳の迂闊さもあってタイムスケジュール（時間）を勘違いしており、ご迷惑をおかけしてしまいました。お世話になりました清水暢先生、沖中芳彦先生、事務局の方々にお詫びとお礼を申し上げます。なお、私の名刺の肩書には、吉田松陰先生にかかる「民族の魂を呼び覚ます道を行く」代表とともに、「長州と会津の友好を考える会」代表があります。

### 吉田松陰のウォーキングの凄まじさ

ウォーキング前のミニレクチャーとして、歴史的事象や松陰先生の偉業・称賛・評価は必要最小限にいたします。現在・将来に及ぶ先生の遺業に係わるいくつかにも携わっておりますので、また記事にすることもありましょう。

吉田松陰（1830～1859 年、安政の大獄で処刑）の 12,000km に及ぶ旅程が記録に残されています。彼が「江戸の旅人」（海原徹氏はこのように云われ『江戸の旅人吉田松陰』『松陰の歩いた道』『吉田松陰と旅』などの書があります）として旅に駆り立てられる心底に次のことが窺われます。①地を離れて人なく、人を離れて事なく、故に人事を論ぜんと欲せば、先ず地理を観よ。②浩然の気。何でも受け入れるこだわらない気持

ちを持つということは、勇気を持つということである。それは死をも辞さない勇気のことだ。そういう精神状態になれば、何も恐れることはない。そして鎖国下の米国への密航・下田踏海へと至る。

松陰先生の旅程をみてみましょう。図 1 は前述の海原徹先生の書中にあるものです。長崎から青森津軽半島に至る旅のなかで、死の危険のある冬に行われた苛酷な旅であったのが東北遊日記 140 日間で右の図に示しています（図中の日付は旧暦）。

寒さと粗食のなか、1 日どれぐらい歩いたのでしょうか？会津人ですが松陰先生に精しい私の盟友・滝沢洋之氏の著書『吉田松陰の東北紀行』から紹介してみます。滝沢氏と私とは、松陰先生の足跡を追って何所かの難路を共に歩きました。

歩行距離が旧暦 2 月 7 日（晴）が 8 里、8 日（雪）が 6 里、9 日（曇）が 8 里半と記しています。越後街道・標高 500 米の諏訪嶺を通るのです。豪雪・雪崩（日本一危険といわれる）のため積雪の間、しばしば死傷者が出るところで、地元の人が強く止めるなかを吉田松陰と親友である肥後の宮部鼎蔵は旅を決行するのです。雪の恐さを知らない二人の奇跡です。

この諏訪峠越えが如何に大変であったか、この時に松陰がつくった漢詩を滝沢氏が意訳していますが、かなり長いので省きます。しかし、山歩きのできる私の萩の友人の山中信助氏が二度挑戦したのですが、雪の高い壁に阻まれ駄目でした（図 2）。NHK の「歴史秘話ヒストリア」の「先生、そりゃムチャです！～吉田松陰 人生体当たり～」で試みられましたが、やはり無理だったのを思い出します。ですが、山登り素人の私が現地の方たちと 2007



図 2 諏訪峠より下方での豪雪  
(平成 17 年 2 月 28 日 山中信助 撮影)

年に挑んだところ成就！奇跡！

松陰先生とともに北へとんでみましょう。青森・津軽半島に入り旧暦3月2日(曇)1里、3日(晴)11里、4日(晴)7里、5日(晴)8里、6日(寒風と飛霰)歩行4里半、船行8里となっていきます。

弘前市から津軽半島一帯には、松陰先生の来訪に痺れておられる方がかなりで、長州人の私が辿ってみて申し訳ないぐらい、記念物が残されたり設置されているのです。

吉田松陰と宮部鼎蔵の二人は、津軽半島先端の龍飛崎の南方手前20km位手前から右手山中へ入り陸奥湾方面へと向います。龍飛崎には行っていないのですが、なんと、ここに松陰先生の詩碑が建っているのです(図3)。ここを通る国道は冬の間は通行ができません。積雪のためです。津軽海峡を眼下にする高所に建てられ、風雪厳しい

ため設置から50年以上が経った今、損壊が進んできました。

長州人・萩人としまして、この記念碑の保存維持に感謝しなければならないのです。関係者の方々にお礼のため訪ねてきました。地元の皆さんのご努力により修復が成ったのです。

津軽半島先端部に日本海側から陸奥湾に向って約10kmの遊歩道「みちのく松陰道」が青森県によりつくられており、見事なウォーキングコースなのです。私は8回完歩していました、うち2回は萩を中心とした大型バスによる団体旅行だったのであります。地元の町役場が出発の時は狼煙を打ち上げ歓迎して下さいました。来年も企画は頭にあります、新型コロナで如何なることに。



図3 眼下に津軽海峡を見る青森県津軽半島北端に建つ吉田松陰詩碑 50年以上を経て風雪のため損壊が進んでいた

## 哲学コンサル

徳山 中村 和行

今回のテーマは「哲学」がビジネスにどのように使われるか、最近の大手企業が雇用している「哲学コンサルタント」について紹介します。

前置ですが、「哲学」という言葉は、明治初年に西周<sup>にし あまね</sup>が英語の philosophy の訳語として造った言葉です。その語源であるギリシャ語の philosophia は sophia (智) を愛するという意味です。西家は、津和野藩の御典医の家系で、因みに森鷗外は西周の従甥にあたります。幕末から明治維新において日本の西洋化の啓蒙に大きな役割を果たした西周は、philosophy を希哲学（哲智すなわち明らかな智を希求する学）と略し、後に「哲学」と定めたとあります（『世界大百科事典』より引用）。『日本国語大辞典』によれば、「哲学」とは世界や人生の究極の根本原理を客観的・理性的に追求する学問であり、とらわれない目で事物を広く深くみるとともに、それを自己自身の問題として究極まで求めようとするものとあります。論理学、認識論、存在論、哲学史、倫理学などの諸領域を含みます。

最近、欧米の企業では「哲学コンサルタント」或いは「哲学プラクティショナー」と呼ばれる哲学の専門家が活躍しています。それは、哲学的な知見や思考を基に、企業の使命や将来像を創るために起用されています。風変わりな“CPO:チーフ・フィロソファー・オフィサー”と呼ばれるポストを置く企業もあります。多忙な経営者や現場の社員から一步後ろに引いて企業を見渡し、適切な助言や運営管理を行うという役割を果たします。GAFAといった超大手のIT企業が、哲学の専門家を雇用していることも話題になっています。何

故、そのような企業戦略が必要なのでしょうか。

今後、多くの仕事がAIに取って代わられ、「言われたことをやればよい」「指示通りに物を作ればよい」という産業革命以後に目指してきた生産性や効率化を求める時代が過ぎ去ろうとしています。また、生き方や価値観の多様化が求められる時代には、他の企業にはない自社の特徴を持たねば生き残ないと考える経営者が増えてきました。そのような環境の中では、単に「もの」や「事業」を売り物にするだけでなく、理念や将来像とともに社会での企業の役割を積極的に提言し、構築する必要があるのです。企業の通常のコンサルタントには、企業が抱える問題に「データ」を基に「直接的」な解決策を提案することが求められるでしょう。しかし、「哲学コンサルタント」には、「問い合わせ」「論理」の展開、「理由」の説明など、市場における有効性を見通して正当化することを、企業が外部や内部へ「説明責任」を果たすための基礎創りが求められます。地域や世界に貢献する企業にとって、事業の核となる先見性や市場戦略を創るには、哲学的な知見や思考法が不可欠であり、社員に哲学的な思考を教育する重要性が増していると考えられます。

グーグルでは、「認知」や「言語」に関する哲学の専門家を雇用しています。その専門家は、「技術という観点からだけで世界を見れば、言葉に意味を与えるような多くの重要な点を見逃すことになるだろう」と述べています。人間性の数値化や定量化に対して警鐘を鳴らしているのです。「データを超えたところに哲学的な問い合わせがある。それこそが今後は重要になっていくだろう」という声が

聞かれるのです。とはいっても、こうした先進的な事例は、まだまだ一部にすぎません。一企業が哲学者を常勤社員として雇用することは、まだハードルが高いようです。企業外の哲学コンサルタントに外注することが一般的だそうです。哲学コンサルタントは、依頼主が新しい観点や洞察力を得られるように「問い合わせ」掛けをして、企業理念の構築や社員の動機付け、社内の様々な対立の調停、経営管理等多様な問題を浮き彫りにし、新しい戦略を立てる基盤を創ります。

哲学プラクティスの専門家であるニューヨーク市立大学教授のルー・マリノフ氏は、「哲学者がビジネスで行うことの多くは、リフレクションの空間を創り出すことである」と述べています。人材育成の分野における「リフレクション」(reflection)とは、個人が日々の業務や現場からいたん離れて自分の積んだ経験を「振り返ること」を指します。さらに、彼は、哲学が「本当のこと」を追求するので、「現状維持」よりも「変容」に重きをおくと言っています。特定の目的の達成に縛られがちとなる企業に、新鮮で予想外の観点を持ち込むことができることになると言っています。

さらに、マリノフ氏は、哲学コンサルティングには次の種類があると述べています。

- ・企業理念・経営理念の構築
- ・倫理規定の策定と実行
- ・法令遵守の達成
- ・動機付け面接の提供
- ・組織内衝突の解決
- ・哲学対話の研修
- ・指導力・企業統治技術の伝達

これらを大きく分けて、

1) 倫理規定やコンプライアンス（法令遵守）の策定：「コンプライアンス」とは、主に企業が社会的規範に反することなく、公正・公平に業務遂行することを言います。法律を守るのはもちろん

のこと、社会的なモラルやルールにも従って企業として活動していくことが「コンプライアンス」です。このことを「ビジネスコンプライアンス」と言います。蛇足ですが、「服薬コンプライアンス」というものもあります。こちらは、医療や看護の現場で使われる際の「コンプライアンス」です。日本語では「服薬遵守」というもので、「患者が医者の指示通りに薬を服薬すること」という意味があります。

2) 企業のミッション・ビジョンの構築：「ミッション」とは「使命」のことですが、言いかえれば起業の際に、なぜこの事業をやるのかという社会的意義を持つことこそが、起業家自身にぶれない「軸」を作りあげるのです。「ビジョン」、すなはち「具体的な中期的な目指す姿」が明確になっているなら、なんとしてでもそこにたどり着くのだという事業継続の意思も自ずと育っていくのです。成功者が語る成功的秘訣に「自分の目標を文字にして毎日見ること」というものがありますが、まさに「ビジョン」の明確化であると言えるでしょう。「ミッション」と共に「ビジョン」がセットで、起業するその段階でしっかりと自分の頭の中に確立されていれば、ちょっとやそっとでは折れない企業を立ちあげられます。

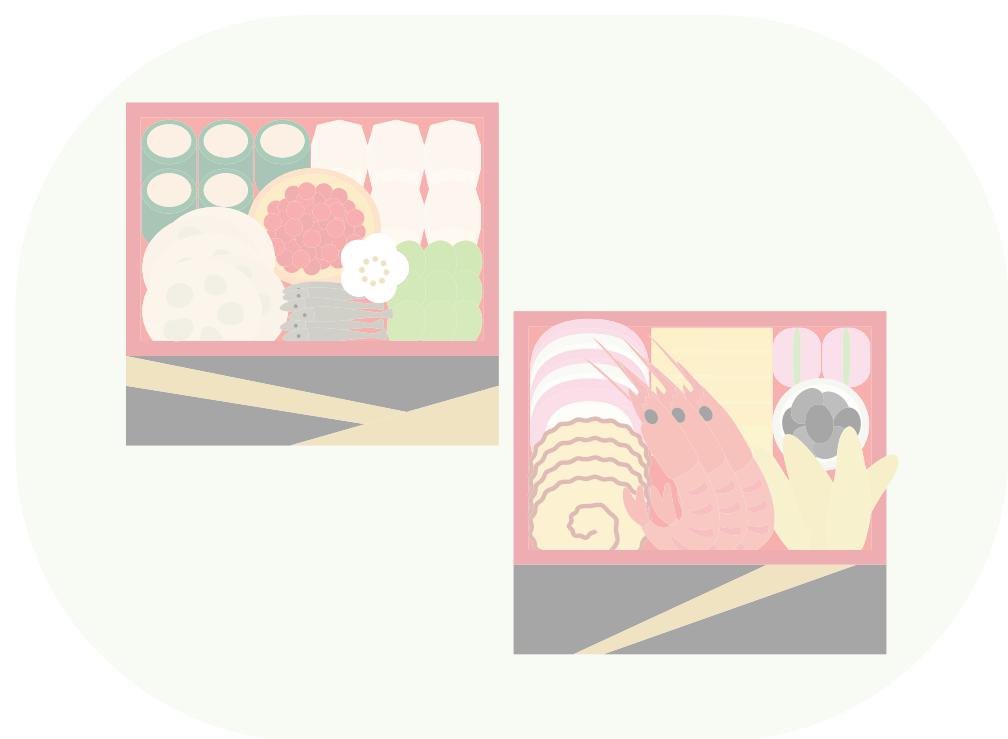
3) 社員研修としての哲学対話：企業では、基本となる統一された考え方や概念をつくること、市場調査、新しい工夫や商品を創ること、そのためのチーム作り、動機付けの向上、コミュニケーション（言語、身ぶり、画像などの物質的記号を媒介手段とした精神的交流のこと。語源はラテン語で「分かち合う」を意味する *communicare*）や人間関係の改善、意思決定、合意形成、批判的思考力の育成など実に多様な目的で行われます。

4) 哲学の専門知に関する講演や調査：企業の事業や理念・目的に合わせて、適切な哲学的知見を提供することです。例えば、マネジメントやリーダーシップについての哲学的知見を提供することで、企業はガバナンスの改善を図ることができます。マネジメントとは、様々な資源・資産・

リスクを管理し、効果を最大化する手法のことです。具体的には、主にビジネス上における様々な資源や資産・リスクなどを管理し、経営上の効果を最適化しようとする手法のことです。リーダーシップとは「指導力・統率力」などと表現され、ある一定の目標達成のために個人やチームに対して行動を促す力のことです。基本的なポイントとしては主に以下の3つが挙げられます。①目標達成のためのビジョンを示す。②ビジョンが実現するように、スタッフのモチベーションを維持しながら励ます。③ビジョンを実現するにあたって問題となる部分を解消する。

以上のように、哲学コンサルは非常に広い射程と潜在性を有していると考えられます。欧米のみならず日本においても、哲学コンサルを起用する企業が徐々に増えています。時代の急速な変化とともに、コンサルや社員研修も、その核心から変わらざるを得ないところまで来ているようです。

参考資料：『哲学はこう使う 問題解決に効く哲学思考「超」入門』 堀越耀介 東洋新聞ONLINE版を改編



## モンスター（ペイシャント）

下関市 塩見 祐一

とある英和辞典によると“monster”的“mon”は“警告する”、“ster”は“もの”で、転じて“何か奇怪なもの”的意なそうだ。もっとも、本題の実話映画「モンスター」（2003年）の和訳は内容からすると俗語の“性的犯罪者”だ。これはシャーリーズ・セロンが歯を抜いてまで演技しアカデミー女優賞に輝いた作品だ。それより前に歯の云々で話題になったのは邦画「檜山節考」（1983年）の坂本スミ子だ。前者のころには既にインプラントがあるが、後者の時代なら、まだ差し歯かクラウンが選ばれただろう。いずれにしても映画史に残る女優さんになると大変なんだ。

臨床医をしていると、大なり小なり副題の「モンスター・ペイシャント」に出会う。NHKのドラマ「ディア・ペイシェント」に描かれたほどはないにしても。ノホホンと仕事をしてきた僕だってソリヤアある。特に若いころはネ。そういうえば、我が家の中男もテレビ番組がこういう医療物になると、昔の僕と同じに親に向かって「チャンネルを変えて」とか更にはそれがアリエナイ美男美女の出演だと「消して」と言ってござる。ほほえましいかぎりだ。ここに、今回は僕にとって遠い日の心に残った自験例を示してみる。

### ♪「網走番外地」～歌：高倉 健

1979年、32才、下関K病院勤務の時。紹介入院で僕が主治医になった○○○さんの急な部屋交換があり、外泊だったそのPtの了解を得ていなかった。所属の会計担当だったのか、僕（やナースにも？）に「何か（見てはいけないものを）見たら？」と騒がれ、医局や医師住宅はおろか、どうして知ったか実家にまで「同じ町に住んど

るんやろ」と身内を使って時間を問わないシツコイ嫌がらせ電話に悩まされた。恐らく、（夜逃げをした貸金取り立てのため）夜間外出許可願いをする際にナース・ステーションでNsが黒電話をかける番号を盗み見たのだろう。まだ若かったし、誰にも相談できず一人怯えた。この間一度、「刑事コロンボ」中でも見られない裸足（当時の来院者はスリッパ履き）の不躾さに加え、○○○さんたちより人相の悪い刑事さんが来られて「迷惑かけていませんか？」と尋ねてくれた。が、お礼参りが恐くて「いいえ」と答えただけ。

おかげで、困った人たちから逃れてどこか遠くへ行きたくなつた。僕の沖縄逃避行への一因でもあった。

### ♪「どうにも止まらない」～歌：山本リンダ

1980年、33才、沖縄M病院勤務の時。前項のころ、どうしても心臓カテーテルが習いたくて当時の下関K病院の院長に小倉K病院での研修を、と頼んだことあり。結果は×。代わりに縁あって飛び込むよう行った先がこの病院。以前に在京の医大で大動脈弁狭窄症置換術を受けたウチナンチュの△△△さんがクニに帰って再手術を当院のI先生の下ですることとなつた。術前までの内科主治医の僕から診れば、軽い糖尿病はあるものの何ら問題はないはずだった。なのに、火曜日の手術終了後もじわじわと出血が止まらず、I先生は気の遠くなるほど押さえていたが、遂に諦められて閉じた。翌水曜日、僕がY村診療所へ半日診療に出ていた間のこと。△△△さんの娘婿が怒鳴り込んできた。縦横LLな大男がスゴイ身振り・手振りに加え病院中に響き渡るイングリッシュで捲くし立てたそつだ。仕事から帰った僕はソレを

伝え聞いただけで震えがきた。

あれからヤマトウに帰って、血小板減少（肝硬変で抜歯後のPt）や薬剤や生検で血が止まらない患者さんに会った際、このアクシデントを思い出すのでした。

♪「小さなスナック」～歌：パープル・シャドウズ

1986年、39才、下関K病院出戻り勤務の時。近隣の先生から「消化器系のがんが心配だから」と精査依頼の紹介状を持ってこられた初老の□□□さん。見るに、身なりもバーバリーでバッヂリ決めておられ、ベッドも“特室”（ついでながら、今昔のコノ差額料金を葉書代金の5円→63円に比べると“価格”って不可解！）を希望される。明くる朝、医局へ内科病棟の婦長さんが飛んで来られ「先生！ 昨日、入れられた先生の患者、夜通し部屋でカラオケです、どうなってるんですか」と告げる。「それは大迷惑やね。本人と話す前に奥さんに会いたいから、お呼びして」と答える。パート先から急ぎ来られて言われるには

「うちは特室に入れるほど余裕はありません」と。“だから”だったんだ。次の日に胃内視鏡をして目を疑った。上部食道が真っ白のカビだらけ。その日だった、僕が沖縄あんなに（飲めなかつた）お酒の武者修行とともに励んだカラオケをストップしたのは。

この年に生まれた長女が大学へ入学した。意外なことに生真面目な彼女に連れられ家族4人でカラオケ・ボックスへ入った。それは僕にとってのカラオケ再開日でもありました。

綾小路きみまろの「あれから40年！」じゃないけれど、当年とて73才の老齢さでもって、今ならどう対処するかとフト思う。かえって拗れたりして。



## はじめての四国八十八ヶ所お遍路

防府　山下　哲男

昨年の夏季特集号「緑陰隨筆」に「四国八十八ヶ所お遍路の勧め—遍路大使になって—」を投稿したが、今回ははじめてお遍路をした時のこととを含めて紹介する。

松山の実家に住人が居なくなり、毎月、庭の草刈りに帰っていたが、何か他についてにすることはないかと探していたところ、四国お遍路がブームになっていることを知った。四国生まれとしても一度は経験しておくのも良かろうと、お遍路をしている。

お遍路には手段として、歩き、自転車、自動車、バスツアーがあるが、「やっぱ歩きでしょう」ということで“歩き遍路”にした。歩き遍路ツアーもあるが、人それぞれ歩くペースも違うし、自分は、まだ現役であったので、空いた時間の好きな時に歩きたいということもあって“一人歩き”にした。一人歩きで心配なのは、遍路中の遭難や骨折、発病などである。身近に、歩き遍路をした人を見つけていろいろ情報を仕入れた。山歩きの時は、大勢の人が歩いている連休を選んで歩くと、万が一の時に助けてもらえるなどの情報が参考になった。

お遍路には1番から88番まで時計回りに回る“順打ち”と、88番から1番へ反時計回りに回る“逆打ち”とがある。初めてのお遍路では、発心の道場（徳島県）、修行の道場（高知県）、菩提の道場（愛媛県）、涅槃の道場（香川県）と回るのが順当である。初心者には道に迷わないためにも標識が整備されている順打ちがお勧めである。また、連續して40日ほどかけて一気に回るやり方や、道場（県）単位で回る“区切り打ち”、自由に回る“乱れ打ち”などがある。自分は、1日で歩いて帰ることができる範囲の順打ち・区切り打ちで回るようとした。ただし、炎天下の舗装道路の歩きや雪

の降る寒い時期の山の中の歩きは避けて、回る札所が前後することになる“乱れ打ち”を組み合わせた歩きにした。結果的に歩いたところが線で繋がるようにした（最初から計画したものではなく回っているうちに思いついて、そうなった）。

お遍路の正装というものがあるが、そこまでの気持ちはなかったので、金剛杖1本で始めた。初回、歩いた時に、紫色の輪袈裟だけを着けている若い女性がいた。雰囲気がなかなかいいなあーと思ったので、その次から真似をした（自分に似合っているかは別にして）。袈裟は仏教の僧侶が左肩から右脇下にかけて纏っている、布状の衣装のこと。袈裟がけ模様や袈裟がけの傷などという言葉があるが、僧侶の纏っている衣装の、斜めになっている部分のイメージに由来している。袈裟を着てお遍路となると「それは大袈裟だ」ということになる。袈裟は仕事や移動に不都合なため、首にかける小さなものにしたのが輪袈裟ということらしい。

ゴルフでラウンドする代わりにお遍路で歩くという感覚であったので、ゴルフで使っていた上下黒色の服で歩き始めた。歩き始めると、黒い服は自動車に認知してもらいにくいことが判ったので、お遍路用の白い羽織を身に付けて、注意を払ってもらえるようにした。トンネルを通過するときや暗い中を歩くときには、反射板がついた服が良いことも分かり、服装も経験を通じて少しづつ変化した。菅笠は風が強いと歩きにくいということでゴルフの帽子で始めた。夏の山道でアブに追いかけられた経験から、虫除けが必要ということで、網で顔が覆える機能を持った帽子に変えた。靴はジョギング用で始めて、山道はゴルフシューズに履き替え、舗装道路でまた元のシューズに履き替えたりしたが、厚底のウォーキングシューズだけで十分なことも判った。

携行品は、線香、蠟燭、マッチ、ライター、納め札、賽銭、経本、数珠、納経帳、ボールペン、虫除け、水、食料、ペンライト、鈴、方向磁石、お遍路地図（スマホもあるが、できるだけアナログで行きたいので）、デジタルカメラとリュックサックである。水と食料は最低限にしてコンビニを活用する。食料として初めはバナナを持って行ったが、食べた後の皮をマナー上、道ばたには捨てられず、皮でさえ重く感じるので、少しでも軽くするために 3 回目から持って行くのを止めた。数珠は本式のものは玉が 108 個（煩惱の数）ついているが、宗派によって違うので、こだわらなければ簡易のもので良いとのこと。自分は親が使っていたものを利用した。唱えたお経の回数を珠を動かして分かるようにするために使われるが、お遍路の間は、精々 3 回繰り返すだけなので数珠玉を動かすことはなかった。鈴は山歩きの際に動物除けとしても必要である。初回、何故かマッチやライターを用意していなかったのが、後で述べる失敗に繋がった。

区切り打ちなので、自動車を置いておくところと、歩き始めるところや歩き終えてから自動車のところに帰るまでの交通手段を決めておく必要がある。最近はネットで地方の交通手段や時刻表が判るので便利になっている。最初、探しきれずに、折りたたみ自転車を自動車に積んで、歩き始めのところまで 10km も自転車を漕いだことがあつ

た。自転車の使用は、ちょっとした上り坂でも体力的にきついことがわかり、また、パンクに備える必要があるなども問題であった。3 回ほど使つたが、計画の立て方が上手くなつて公共交通機関が使えるようになり、自転車は不要になった。

お遍路初日は 2015 年 11 月 29 日、早朝に愛媛県松山市を出発、高速道路を 2 時間かけて、歩き終える予定の 5 番札所 地蔵寺（徳島県板野町）に到着した。駐車場に自動車を置いて、バスを待つが、予定の時刻に来ない。電車に乗り継いで 1 番札所に行く予定であったので、電車に間に合わない時間になつてしまい、急遽、1 番札所へ自動車で行くことになつってしまった。午前 9 時前、1 番札所 竹和山靈山寺に到着。<sup>じくわざんりょうせんじ</sup> 計画通りにいかないのもお遍路である。

お寺での作法は「徳さんのお遍路さん」という TV 番組を参考に行った。門のところで合掌、一礼して左から入る。この際、帽子（菅笠）は取らなくても良い。お寺には寺号の他に○○山と山号がつけられているので、門を山門ということが多い。平地にあるのに何故、山号がつけられているのかは、同じお寺の名前が多くなり区別がつかなくなつたことから考え出されたらしい。もともと山に建てられることが多かったことから、近くの山の名前などをつけてお寺の場所が分かるようにしたのが多い。例えば、黒巖山大日寺は徳島にある第 4 番札所、大栗山大日寺は徳島の第 13 番

札所、法界山大日寺は高知にある第 28 番札所である。仁王門という山門には仁王像（金剛力士像）の「阿形さん」「吽形さん」がいて、阿吽の呼吸でお寺を守っている。

「あいうえお・・・ん」を発音すると分かるよう、阿形像は口を開けているし、吽形像は口を結んでいる。昔、日本語は右から左に書いていたので阿形像は向って右、吽形像は向かって左に配置さ



写真 1：第 58 番札所 作礼山 仙遊寺。  
右に阿形像、左に吽形像。門前に黄色い輪袈裟の遍路人形。

れていると思えば覚え易い。86番札所 志度寺の仁王像は運慶作と言われており、迫力が違っていた。ただ、風雨にめげずに頑張っている姿になつていて少し気の毒な感じもした。札所によっては山門に四天王（持国天、增長天、広目天、多聞天）あるいは毘沙門天を祀っている。

山門をくぐって中に入り、手水舎に行く。水盤に溜まった水または流水を柄杓で掬い、左手→右手の順に水をかけ、左掌に溜めた水で口を漱いで淨め（柄杓に口をつけてはいけない）、最後に柄杓を立てて、残った水を柄に流して濯いでから元の位置に戻す。手を拭くタオルをお接待として用意してくれているお寺もある。水盤には「洗心」「淨心」などと書かれており、身体だけでなく心（魂）も淨めてからお参りすることになる。

次に、鐘楼を探して、一回だけ鐘を撞く。お参りに来ましたとお知らせする意味だそうだ（強くつく必要はないし、撞木の綱をコントロールして2回鳴らないようにする）。お参りが済んでから鐘を見つけて、撞いたことがあったが、戻り鐘といって良くないことと言われて、始めからやり直したことがあった。お寺の近所から、鐘の音がうるさいと言われるので、参拝者には撞けなくしているお寺もある。

杖立に杖を置いて次に進む。同じような杖があるので杖に目印を付けておく必要がある。



写真2：手前に手水舎。水盤には洗心の文字が書かれていることが多い。タオルのお接待あり。奥に鐘楼が見える。

弘法大師が88箇所を決める前からお寺は存在していたので、札所には、本堂と太子堂がある。まずは本堂にお参りする。献灯といって、蠟燭を1本、所定の蠟燭立てに、空いた上の段から立てる（後から来た人への配慮という）。蠟燭の火はマッチかライター、あるいは札所で用意してある種火で点ける。自分はネットで調べて「蠟燭の火は周囲を明るく照らすため」と理解していたので、前の人の蠟燭の火を使って自分の蠟燭に火を点けて巡っていた。3番札所まで回ってきた時に、御夫婦から「それは貰い火といって、良くないことだ」と言われてびっくりした。前の人の業の良いものも悪いものも貰うことになると言わされた。ここで自分がマッチもライターも持っていないことに気づき、お寺で庭の掃除をしている人に、売っているお店を紹介してくださいと尋ねた。すると、「使っていたライターが残り少ないのであげる」と言ってくださった。初めてのお接待を受けることになった。その日の歩きが終えたところで、自動車を使って、再度、1番から3番札所まで、お参りをやり直した。すでに悪い業を貰って後の祭だったかもしれない。

献灯の次は献香をするために線香を3本あげる。線香は自分の灯した蠟燭の火で点けて良い。点いた火を息で吹き消すのは良くないとされており、手で風を送って消す。息は不浄のものを含んでいるということらしい。線香は香炉の中央から立てる。朝一番に行くと香炉の灰を綺麗に均してくれていて気持ちよく立てられるお寺がある。3本の意味は、「過去、現在、未来」の仏様にお供えする、あるいは「仏・法・僧」に帰依するということらしい。その他に「心・身体・言葉」など諸説ある。煙と香りは、もともと防臭と殺菌、その場を淨めるものであったが、仏様と繋がる、仏様の食べ物などいろいろ言われるようになっている。

線香を立てた後、納札に日

付と住所、名前を書いて本堂の納札箱に入れる。お遍路の寺は札所と言われている。衛門三郎（豪農で欲が深く、みすぼらしい僧が托鉢に来た時に僧侶の鉢を簞で叩き落として追い返した。鉢は八つに割れ、その後、8人の子供が次々と亡くなつた。僧侶が弘法大師であったことに気がつき、お詫びをするために弘法大師の後を追って四国巡礼の旅に出た人と言われている）という人が巡った時に、来たことがわかるようにと、札を納めて回ったことが習わしのはじめとされている。古くは納札が木の札で、それを柱に打ちつけていたので、お遍路で札所を回ったことを、札所を打ったと表現する言葉がある。写経をしたものを入れる納経箱（写経箱）が併設しており、最初はそちらに入れ間違えたこと也有つたので注意が必要である。

次に、本堂にある鐘を鳴らし、お賽銭（額は決まっていない）を入れて、礼拝し、御本尊にお願いや報告をする。右側に移って般若心経を唱える（暗唱できても経本は手に持っておくらしい）。他力本願である浄土真宗以外は宗派共通で般若心経を唱えて良いということである。最後に、そのお寺の御本尊に対する真言を3回繰り返して終わる。御本尊の名前と真言は壁に書かれている（この真言が呪文のようであり、未だに覚えられない）。



写真3：(右) 献香台：朝一番に行くと綺麗にならされている。

(左) 献灯箱：ろうそくは上から立てるのが作法。

(奥) 納札入（納札箱）あり。

ついで、太子堂にお参りする。手順は本堂と同じである。祀られているのは弘法大師であるので、般若心経の後は「南無大師遍照金剛」と3回唱えることになる。ここは真言宗でなければ違う作法になると思われるが、四国靈場会では宗派を問わず分け隔てなくお迎えしているという。

お参りが済むと納経所に向かう。御朱印は参拝の記念であるが、ご納経はお経を納めたという証拠として書いて貰うものという。御朱印が押され、さらに「奉納・本尊の名前・寺名」が原則として書かれる。四国八十八ヶ所お遍路専用の納経帳（予め書く場所が決まっているので分かり易い）が売られている。お遍路では納経した日付は記載されない。納経に記念日という考えがなく、日々の通過点に過ぎないので書かないということである。納経料は四国靈場会で決めていて1回300円で統一されている。お寺がた御影といつて御本尊が描かれた紙札が白黒は無料で頂ける。カラーは200円。62番札所「宝寿寺」だけは白黒で200円と言われて、貰わない人もいる。無料で御影を貰いたい人は61番札所 香園寺の駐車場に新設された62番礼拝所で貰うことができるが御影に宝寿寺の名前はない。

お参りの全過程にかかる時間は少なくとも20分程度見ておく必要がある。バスの団体と鉢合

せになると、もっとかかることになる。納経が済むと事前に情報を得ていた境内の見どころを見て回る。

全てが終わり、山門を左側から出て、合掌、一礼し、次の札所に向かう。この時、忘れてはならないのが金剛杖である。普段、使わないので、しばらく歩いてから引き返す羽目になったのを何度か経験した。このお参り作法の繰り返しを88回行えば結願ということになる。

遍路道 一歩一步が 結願へ